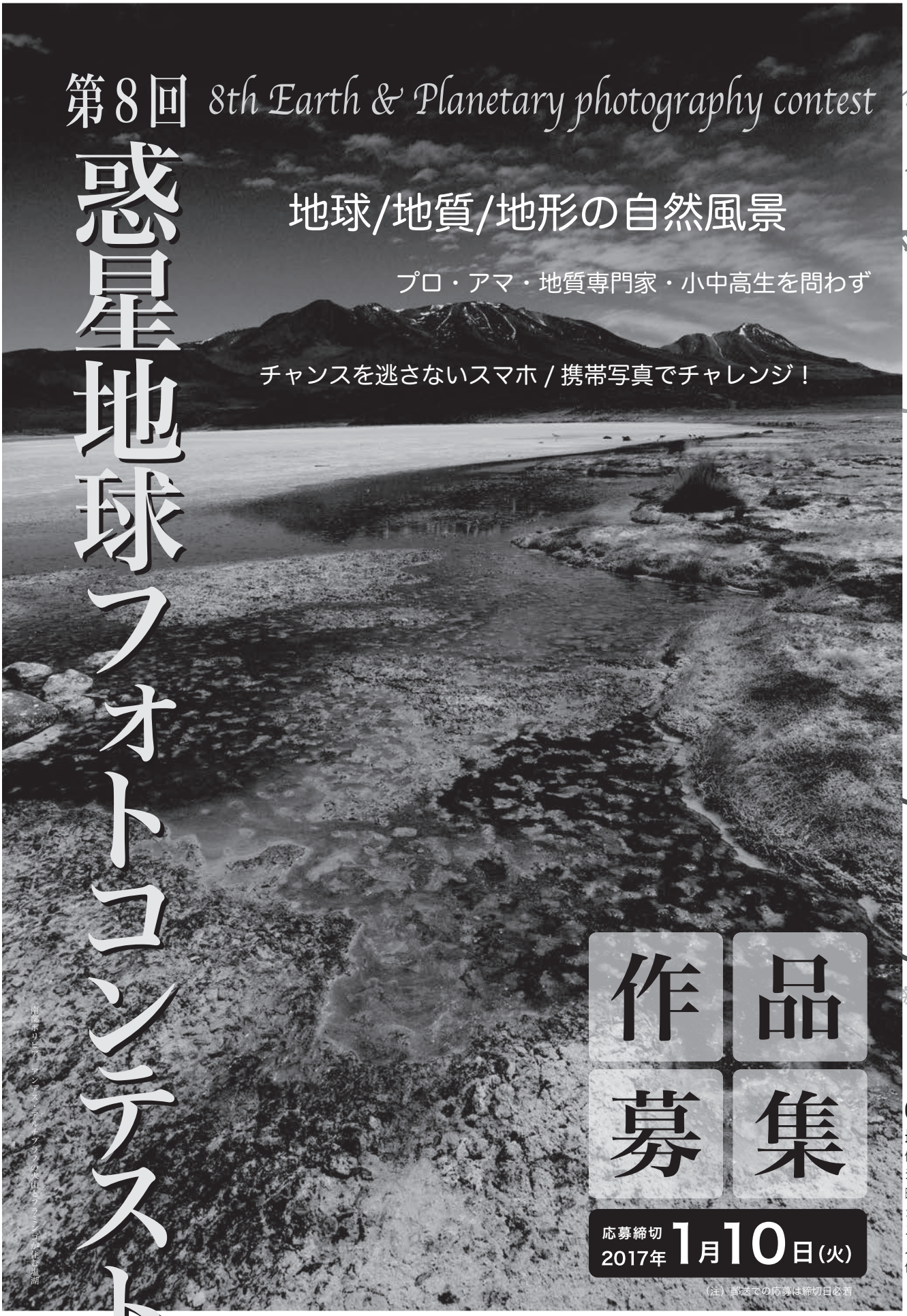
地質学雑誌　第122巻　第10号（通巻1453号）付録　平成28年10月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.19 No.10 October 2016



第8回 惑星地球フォトコンテスト

8th Earth & Planetary photography contest

地球/地質/地形の自然風景

プロ・アマ・地質専門家・小中高生を問わず

チャンスを逃さないスマホ / 携帯写真でチャレンジ！

Nature landscape
bedding 地層
rock 岩
mineral 鉱物
fossil 化石
volcano 火山
fault 断層
debris flow 土石流
earthquake 地震
Tsunami 津波
ジオパーク Geopark
ジオ鉄
鉄道と地質/地形とのコラボ

作品募集

応募締切 2017年1月10日(火)

(注) 郵送での応募は締切日必着

賞金

最優秀賞	1点	5万円
優秀賞	2点	2万円
ジオパーク賞	1点	2万円
日本地質学会会長賞(注)	1点	1万円
ジオ鉄賞	1点	1万円
スマホ賞	1点	5千円
入選	数点	5千円
佳作	数点	

(注)日本地質学会会員対象

詳しくは http://www.geosociety.jp

主催 (一社) 日本地質学会

後援 (NPO) 日本ジオパークネットワーク (JGN) / (公財) 深田地質研究所 深田研ジオ鉄普及委員会

協賛 株式会社 ウインディーネットワーク

問い合わせ先
〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15
日本地質学会フォトコンテスト係
電話 03-5823-1150 photo@geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.19 No.10 October 2016

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

ご案内 ……2
シンポジウム：熊本地震を踏まえた地域防災力強化の在り方 in 大阪/第２回防災学術連携シンポジウム「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」

公募 ……2
東北大学大学院理学研究科地学専攻教授，助教の公募

各賞・助成 ……3
平成29年度東京大学大気海洋研究所共同利用・学際連携研究公募

学協会・研究会報告 ……4
IGCP 608「白亜紀のアジア－西太平洋地域の生態系システムと環境変動」第４回 国際シンポジウム（ロシア・ノヴォシビルスク）（安藤寿男・楠橋　直）

CALENDAR ……6

第１回防災推進国民大会：報告（斎藤　眞） ……7

TOPIC ……8
トリビア学史２：日本にライエルの孫がきた？ビーグル号がきた？（矢島道子）

『フィールドジオロジー全９巻』電子本の販売が開始されました ……9

支部コーナー ……10
関東支部/清澄フィールドキャンプ　実施報告/大磯丘陵北西部・火山灰ミニ巡検のお知らせ

院生コーナー ……12
地磁気・古地磁気・岩石磁気夏の学校 2016 参加報告（北原　優・田渕　優）

2017年度の会費払込について/学部学生・院生割引会費申請書 ……14

学会記事 ……16
2016年度第１回理事会議事録
2015年度第10回・11回・12回執行理事会議事録
2016年度第１回・２回執行理事会議事録

巻末：会費口座振替依頼書

2017年度日本地質学会各賞候補者募集

応募締切：2016年11月30日（水）必着

詳しくは，
ニュース誌10月号または学会HPを参照して下さい．

表紙紹介

第７回惑星地球フォトコンテスト入選
「親子で地底湖探検～龍泉洞第三地底湖」

写真：**熊谷　誠**（岩手県）

【撮影場所】岩手県岩泉町龍泉洞　第三地底湖

地質解説等詳しくは，学会HP「地質フォト」参照．

事務局営業カレンダー

お休み

11月 November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月 December

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

シンポジウム：熊本地震を踏まえた地域防災力強化の在り方 in 大阪

2016年４月に発生した熊本地震は，東日本大震災後に災害に対する危機意識が薄れていた国民に大きな危機感を与えました．そこで，熊本地震の教訓を踏まえ，今後の地区防災計画，事業継続計画（BCP）等を通じた住民や企業による地域防災力強化の在り方について，ICTとの関係にも留意しつつ議論を行います．

主催：地区防災計画学会，情報通信学会災害情報法研究会，（一財）関西情報センター
日時：2016年11月20日（日）13:30～16:30
場所：大阪大学中之島センター講義室304

プログラム
【開会挨拶】
田中行男　（一財）関西情報センター専務理事

【パネリスト・報告テーマ（仮題）】
室崎益輝　神戸大学名誉教授「熊本地震と企業の専門ボランティアの役割」
矢守克也　京都大学防災研究所教授「黒潮町の地区防災計画」
林　秀弥　名古屋大学大学院法学研究科教授「BCPとICTにおける競争政策」
田中健一　兵庫県防災教育専門員「宝塚市中山五月台中学校区の地区防災計画」
筒井智士　前内閣府・ＮＴＴ東日本「熊本地震と九州の企業等のBCP・地域貢献」
西田佳弘　（一財）関西情報センター主席研究員「ICTを活用した地区防災計画の新たな展開」
【コメンテーター】
井上禎男　琉球大学大学院法務研究科教授
【司会】
西澤雅道　内閣府・福岡大学法学部准教授

定員100名・参加費無料　住民や企業の共助による防災活動に関心のある方（先着順・定員になり次第終了）．
詳細・参加お申し込みは下記のURLをご参照ください．
http://www.gakkai.chiku-bousai.jp/ev161120.html

第２回防災学術連携シンポジウム「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」

主催：日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会，防災学術連携体
日時：2016年12月１日（木）10:00～18:00
会場：日本学術会議講堂
資料：「学術の動向」特集：防災学術連携体の設立と取組（入場時に定価777円を700円で頒布）

近年，地球温暖化による気候変動の影響などで日本の台風・豪雨災害が激化している．今年の台風第十号等による記録的な大雨は，北海道・岩手県に甚大な被害をもたらした．日本学術会議の防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は，防災学術連携体の54の構成学会とともに自然災害の軽減に向けて学術連携を進めている．このたびは「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」をテーマにして「国土利用と台風・豪雨災害」，「台風・豪雨災害への備え」および「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」の３セッションの構成で，公開シンポジウムを開催する．

防災に関わる各学会の専門家が集まり，研究成果や取り組みを発表すると共に，今後，わが国はどう備えていけば良いのかを議論する．

セッション１　「国土利用と台風・豪雨災害」
日本気象学会，日本海洋学会，日本リモートセンシング学会，横断型基幹科学技術研究団体連合，日本地球惑星科学連合，日本地理学会，日本都市計画学会，地理情報システム学会，日本地図学会，日本自然災害学会，日本ダム学会

セッション２　「台風・豪雨災害への備え」
日本応用地質学会，日本地すべり学会，日本造園学会，日本地域経済学会，日本水環境学会，農業農村工学会，地盤工学会，日本コンクリート学会，日本風工学会，土木学会

セッション３　「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」
日本集団災害医学会，こども環境学会，日本災害情報学会，日本自治体危機管理学会，日本災害看護学会，日本看護系学会協議会，廃棄物資源循環学会，日本緑化工学会

詳細，参加申込は下記より
http://janet-dr.com/07_event/event13.html

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

東北大学大学院理学研究科地学専攻教授の公募

募集人員　教授１名
所属講座　地学専攻，地圏環境科学科環境地理学講座
募集分野　現在および過去の気候に関する実測的かつ先端的研究を，地学専攻や他専攻，他研究科等，学内外の研究者と協力しながら，中心となって推進される方．東北大学の研究，教育プログラムの推進に尽力下さる方．地学専攻では国際共同大学院プログラムを推進しており，国際的視点を有している方が望ましい．また，地学専攻では学科統合に向けて準備を進めており，地球科学に関する広い見識を持ち，研究と教育に尽力下さる方が望ましい．外部資金の獲得にも実績があり積極的な方．若手研究者を養成し世界に送りだすことに尽力下さる方が望ましい．
担当科目　東北大学全学教育と地圏環境科学科，地学専攻の講義・演習・室内実習・野外実習等
応募資格　博士の学位を有する者
着任予定　平成29年４月１日以降の出来るだけ早い時期
提出書類　１．履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）
２．研究業績リスト
(1) 論文（査読の有無を記すこと）
(2) 著書
(3) その他
３．主要論文10編の別刷り各１部（コピー可）
４．在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト
５．これまでの教育・学生指導・研究実績の概要（2000字程度）
６．着任後の研究・教育に関する抱負（2000字程度）
７．照会可能な方２名の氏名と連絡先

応募締切日　平成28年11月30日（水）必着
書類送付先　〒980-8578　仙台市青葉区荒巻字青葉６-３
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室宛
応募書類送付に際しては，封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留郵便にすること．応募書類は原則返却致しません．また，審査において面接を行う場合，交通費は応募者の負担とします．

照会先　東北大学大学院理学研究科地学専攻，井龍康文
電話 022-795-6622，FAX 022-795-6634，
e-mail：iryu@m.tohoku.ac.jp

その他　当該講座が属する地学専攻の構成員と研究内容は，下記のURLをご参照下さい．
（URL: http://www.es.tohoku.ac.jp/JP/index.html）
なお，東北大学では，大学内での女性研究者比率向上に努めています．
（URL：http://www.morihime.tohoku.ac.jp/suishin/suishin.html をご覧下さい）

東北大学大学院理学研究科 地学専攻助教の公募

募集人員　助教１名
所　　属　地学専攻
募集分野　有機地球化学
（地質試料に対して安定同位体測定ができる方）
担当科目　東北大学の全学教育と地球惑星物質科学科，地圏環境科学科の演習・室内実習，野外実習．（注意：着任後に全学教育自然科学総合実験の実施責任者になっていただく可能性があります．）
応募資格　博士の学位を有する者
着任予定　平成29年１月１日以降の出来るだけ早い時期
提出書類　１．履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）
２．研究業績リスト
（1）論文（査読の有無を記すこと）
（2）著書
（3）その他
３．主要論文３編の別刷り各１部（コピー可）
４．在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト
５．これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）
６．着任後の研究・教育に関する抱負（2000字程度）
７．照会可能な方２名の氏名と連絡先

応募締切日　平成28年11月30日（水）必着
書類送付先　〒980-8578　仙台市青葉区荒巻字青葉 6 - 3
東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室宛
応募書類送付に際しては，封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留郵便にすること．応募書類は原則返却致しません．また，審査において面接を行う場合，交通費は応募者の負担とします．（外国に居住中などの理由で簡易書留郵便が送れない場合は別途相談）

照会先　東北大学大学院理学研究科地学専攻，専攻長　井龍康文
電話 022-795-6622，FAX 022-795-6634，
e-mail：iryu@m.tohoku.ac.jp

その他　地学専攻の構成員と研究内容は，下記のURLをご参照下さい．
（URL: http://www.es.tohoku.ac.jp/JP/index.html）
なお，東北大学では，大学内での女性研究者比率向上に努めています．
（URL：http://www.morihime.tohoku.ac.jp/suishin/suishin.html をご覧下さい）
地学専攻では，リーディング大学院（グローバル安全学トップリーダー育成プログラム）及び国際共同大学院（環境・地球科学）を実施しており，所属教員にはこれらのプログラムに積極的に関わっていただきます．
地圏環境科学科と地球惑星科学科は平成30年頃の学科統合を計画中です．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内いたします．

平成29年度東京大学 大気海洋研究所共同利用・学際連携研究公募

◆応募資格：国・公・私立大学および公的研究機関で海洋科学に関する研究を行う研究者ならびにこれに準ずる者

◆共同利用研究
１．大気海洋研究所（柏地区）
（1）外来研究員：所外の研究者が本所に滞在して研究を行う便宜を提供します．
（2）研究集会：１～２日間のシンポジウム．大気海洋研究所（柏地区）での開催を原則とします．

２．国際沿岸海洋研究センター
（1）外来研究員：センターに滞在して研究を行う便宜を提供します．
（2）研究集会：１～２日間のシンポジウム．震災のため開催場所は大気海洋研究所（柏地区）での開催を原則としますが，大槌周辺での開催も可能とします．

◆学際連携研究
（1）特定共同研究
（2）一般共同研究

◆申込期限：平成28年11月30日（水）必着

公募要領および各申込書類は研究所ホームページに掲載されています．
http://www.aori.u-tokyo.ac.jp/

東京大学大気海洋研究所
〒277-8564　千葉県柏市柏の葉 5 - 1 - 5
電話　04-7136-6006（代表）
FAX　04-7136-6039

国際沿岸海洋研究センター
〒028-1102　岩手県上閉伊郡大槌町赤浜 2 - 106- 1

学協会・研究会報告

IGCP 608「白亜紀のアジアー西太平洋地域の生態系システムと環境変動」第４回 国際シンポジウム（ロシア・ノヴォシビルスク）

安藤寿男（茨城大学理学部）・**楠橋　直**（愛媛大学理学部）

The Fourth International Symposium of IGCP608 “Cretaceous Ecosystems and Their Responses to Paleoenvironmental Changes in Asia and the Western Pacific”

IGCP（地質科学国際研究計画）608「白亜紀のアジアー西太平洋地域の生態系システムと環境変動」（2013-2017）の，第４回国際シンポジウムは，2016年８月15-17日の日程で，ノヴォシビルスクにあるロシア科学アカデミー（RAS）シベリア支部（SB）Trofimuk石油地質・地球物理学研究所（IPGG）で開催された（写真１）．ロシアの地域リーダーでIPGGのボリス・シュリーギン（Boris Shurygin）教授がホストを務め，ノヴォシビルスク州立大学，ケメロヴォ地域伝承博物館などが共催に加わっている．

ノヴォシビルスクは西シベリアのオビ川沿いにある人口150万のロシア第三の都市で，その名前は「新しいシベリアの街」という意味である．中心街にあるシベリア鉄道の駅から南30 km程のところに，アカデムゴロドクと呼ばれる，RAS-SBの多数の研究機関や大学が集まる世界初の大規模科学研究都市があることでも知られる．特に筑波研究学園都市のモデルになったという．広大な針葉樹林の中に多数の研究棟，宿舎棟，公共施設，商業施設，ホテルなどが計画的に配置されている．配付されたアカデムゴロドクを紹介する露英２カ国語のカラー冊子からは，IPGGが街の南部にあって，各種施設が揃った大変便利な一角であることがわかる．宿泊したホテルから研究所へは，林の中の歩道を通って徒歩15分ほどで，反対方向に30分歩くと人造湖オビ湖の砂浜でリゾート気分も味わえた．

ホスト役を務めたシュリーギン氏は，IPGGで中生代層序古生物研究室の３代目教授として，創設者のVladimir N. Saks（1911-1979）氏，２代目のVictor A. Zakharov氏（現在はモスクワのRAS地質研究所）を継いで，広大なシベリアにおける中生界研究を主導してきた重鎮である．

◆シンポジウム◆

IPGGの３階会議場で行われたシンポジウムには，７ヶ国22名，ロシア38名の計８ヶ国60名が参加した．西シベリアという遠方，８月中旬の開催時期，第35回万国地質学会議（35th IGC：南アフリカ・ケープタウン）直前といった諸条件から，やや少なめであった．特に日本からは３名と，昨年と比べ寂しい状況だった．女性は28名を数えたが，大学院学生は僅か２名であった．研究発表は，下記のように５つのセッションで１件20分の口頭が28件，ポスター７件が行われた．

８月15日（月）

開会セッション

１．陸海生態系の生物多様性：アジアー西太平洋域の生物多様性（口頭６件）

２．白亜紀古地理・古生物地理（４件）

８月16日（火）

３．白亜紀気候・環境変動（６件）

４．白亜系層序・堆積学（５件）

８月17日（水）

５．アジアー西太平洋域の白亜紀脊椎動物（７件）

ポスター・セッション（７件）

閉会セッション・IGCP608ビジネス・ミーティング

開会セッションでは，IPGG研究主事のKontorovich教授より歓迎挨拶の後，シュリーギン教授から特別講演として中生代層序古生物研究室の初代のSaks教授の研究や業績について紹介があった．そして，今回のシンポジウムに，Saks教授の生誕105年を記念する意義を込めることが披瀝され，代表してリーダーの安藤にSaks教授の著作集（２巻）が贈与された．

セッションは，参加者各自の研究対象（地層や分類群など）に関するケース・スタディが中心であったが，この数年の研究成果が逐次紹介され，各国での白亜紀研究の進展が伺えた．IGCP608も４年目でお互い顔見知りも多く，気兼ねなく質問できる和やかな雰囲気であった．直前になってロシア人を含む数件の発表キャンセルや欠席者があったことを除けば，それなりに満足できるものであった．東アジアの白亜系は陸成層が多く，石炭資源探査による地質情報の蓄積もあって，ロシアでも古植物学・古花粉学的な研究やそれに基づく古環境研究が現在でも盛んであることが伺えた．ポスターは，休憩場所でもある会場後方の茶菓テーブル横の掲示版に３日間掲示したままだったため，３日目のポスター・セッションとは別に休憩時間や空き時間に，随時発表質疑が行われた（写真２）．

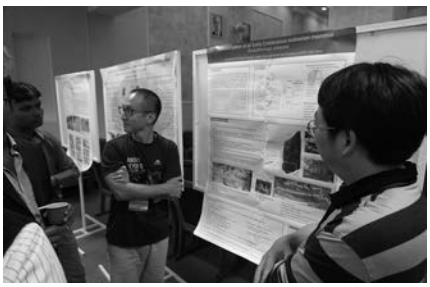
発表数が30未満と３日間の集会としては余裕があったため，１日目昼食後に中央シベリア地質博物館（会議場の階下２階；写真３），２日目午後にはノヴォシビルスク中心街北部のノヴォシビルスク動物園，そして３日目午後には，IPGGから徒歩15分ほどにある考古・民俗博物館の見学が組み込まれていた．アカデムゴロドクならでは企画と，実行委員会の配慮であろう．

初日の夜にはアカデムゴロドク中枢の施設である科学者会館で歓迎懇親会が行われ，昨年８月中国瀋陽での第３回集会以来の再会を祝う場となった．２日目の動物園見学の後は，ノヴォシビルスクで一番高いビル最上階のレストランで，オビ川の川面に映る夕焼けを見ながらの豪華な夕食会があった．

◆2017年の第５回は韓国済州島で◆

閉会セッションでは，５回目となる2017年のシンポジウムは韓国済州島で，大韓地質学会70周年行事と重ねて，10月25-27日に行わ

写真１　Trofimuk石油地質・地球物理学研究所の会議場での記念撮影．



左から，写真２　ポスターセッションの様子（Romain Amiot氏撮影）．写真３　中央シベリア地質博物館の見学．写真４　ケメロヴォ地域伝承博物館の*Psittacosaurus sibiricus* 復元骨格展示（Romain Amiot氏撮影）．

れる予定が確認された．巡検は，10月22-24日に，韓半島南西-南岸地域で白亜系慶尚超層群とその相当層および恐竜足跡・卵殻・骨格化石層を見学する．第１回目のCircularは12月中旬頃に配付される．

さらに，先行プロジェクトIGCP434，507のように，活動年の１年延長（OET: on extended term）についても話し合われた．IGCP608の集会に初参加のタイのメンバーから，2018年秋のタイ開催案が提案されたため，OETを2017年秋にUNESCO-IGCP事務局に申請する計画が承認された．

実は，今回は韓国からの参加者がいなかった．これは，直後の南アフリカでの35th IGC（８/29-９/２）において，韓国主要メンバーが，2024年の37th IGC招致（韓国・釜山）に全力を投入していたためと，ケープタウンで聞いた．その甲斐もあって，見事招致に成功した．先日行われた日本地質学会第123年学術大会（東京・桜上水）初日（９/11）の懇親会にゲスト参加された，大韓地質学会の許民（Min Huh）会長（全南大）もIGCP608のメンバーである．第５回のIGCP608集会が，IGC2024釜山開催に向けた支援の意義もこめて盛大な集会となるよう，多くの日本人研究者の参加を期待したい．

なお，今回の集会の概要はIGCP608のWebsiteで閲覧できる．http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

（**安藤寿男**　IGCP608リーダー）

◆地質巡検◆

シンポジウム終了後の８月18-20日には，外国人６ヶ国18名，ロシア人16名の総勢34名が参加し，シベリアの有名な前期白亜紀脊椎動物化石産地の一つであるシェスタコヴォ（Shestakovo）への野外巡検が行なわれた．初日はノヴォシビルスクから東方200 kmのケメロヴォ州ケメロヴォ市へ移動し，ケメロヴォ地域伝承博物館（Kemerovo Regional Museum of Local Lore）を訪問した．ノヴォシビルスクからケメロヴォまでは走行距離が約300 km もあり，午前８時過ぎにノヴォシビルスクを出発しても，ホテルでの昼食後に博物館見学を始めたのは15時過ぎであった．それでも，丘陵，原野，タイガ地帯やダーチャの建ち並ぶ畑地を眺めながらの移動はとても快適だった．

ケメロヴォ博物館は州の文化施設として，州の地質・古生物・動物・植物といった自然史を中心に展示している．クズバス（クズネスク）炭田を構成する石炭紀の石炭や珪化木のほか，代表的な岩石・鉱物・化石が陳列されている．そしてなぜか世界各地から収集したヘビやトカゲ，両生類，昆虫，淡水魚などの珍しい生体展示もあった．2014年よりモスクワのRASのBorissiak古生物研究所と共同でシェスタコヴォの恐竜発掘調査を実施しているらしく，臨場感のある*Psittacosaurus sibiricus*の復元骨格展示が充実していた（写真４）．さらに，共産する哺乳類（“相称歯類”の一種）の標本も展示されていた．見学に続いて小集会があり，州知事と館長の歓迎の挨拶の後，Maschenko氏（Borissiak古生物研）によるシェスタコヴォ脊椎動物群の概要を解説する講演があった．

夕方の日没前には，ケメロヴォ市中央を流れるトム川沿いの段丘の突端にある赤い丘（Krasnaya Gorka）展望台と赤い丘博物館を訪問した．街を一望できる展望台にはこの地方を特徴付けるケメロヴォ炭鉱やクズバス炭田地域の炭鉱労働者を称える巨大な記念碑があり，博物館には炭鉱開発の歴史や炭鉱に関わる技術や文化遺産などが展示されていた．

２日目はケメロヴォの東北東150 kmほどのところにあるシェスタコヴォを訪れ，下部白亜系Ilek層の露頭見学をおこなった．Ilek層は様々な脊椎動物化石を産出することで知られているが，中でもトリティロドン類が見つかっていることは興味深い．これまでに白亜紀のトリティロドン類化石が見つかっているのはIlek層のほかには日本の手取層群しかない．キヤ川沿いの段丘崖にシェスタコヴォ１から３の３箇所の露頭があるらしいのだが，そのうち，シェスタコヴォ３を一般公開されている発掘現場に入って見学した（写真５）．露頭は幅25 m高さ10 m程で，細粒砂岩と赤褐色シルト-粘土岩の互層からなっており，*Psittacosaurus*や竜脚類などは主に露頭中ほどの高さにある厚いシルト岩から産出するそうである．大陸の発掘現場だし，多くの化石が産出しているから，巨大な露頭を想像していたのだが，季節によるかもしれないが植生の多い地域で，露頭自体が乏しそうな上，露頭規模もそれほど大きくなかったのは意外だった．さすがにハンマーを取り出して露頭を叩くわけにはいかなかったが，気になっていた露頭を実際に見られたのは良い経験になった．

露頭見学後は，ちょうどシェスタコヴォ１の対岸にある村の祭り広場で，村人から音楽と昼食の盛大な歓待を受けた．昼食も終わったころから激しく雨が降り出したため，そろそろ帰ることになるのかなと思ったが，皆が待避したテントの中で民俗衣装の女性たちの合唱は続き，かえって盛り上がったのが印象的だった．

３日目の午前中はケメロヴォ市から北西50 kmほどの，Tomskaya Pisanitsaと呼ばれる自然歴史公園を訪問した．そこではトム川沿いの古生代後期の弱変成堆積岩の崖に描かれた新石器時代の岩絵遺跡をモチーフに，付近の森を観光施設にしていた．岩絵の周りには多くの落書きがあり，ちょっと見ただけではどれが岩絵なのだかわからなかったのは，ご愛敬だろう．シベリアの考古-民俗-開拓史研究の成果を楽しめる面白い施設だった．ここでも，豪華な昼食のもてなしを受け，州・村を挙げての並々ならぬ準備と熱意を感じた．

巡検だけに限らず，全体を通して，何から何まで非常に心を配って準備されていたことがよくわかった．素晴らしいシンポジウムならびに巡検を準備・運営されたシュリーギン氏，ケメロヴォ博物館Feofanova館長ほか多くの関係者の皆様に厚く謝意を表したい．

（**楠橋　直**）

写真５　シェスタコヴォ３のIlek層発掘現場の露頭．

CALENDAR

2016.10～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，(共）共催，(後）後援，(協）協賛．

2016年

10月　October

（後）藤原ナチュラルヒストリー振興財団神戸シンポジウム
ナチュラルヒストリー：これまでの貢献と今後へ期待
10月22日（土）13:30～17:00
場所：兵庫県民会館けんみんホール
共催 兵庫県立人と自然の博物館
http://fujiwara-nh.or.jp/

○IGCP589「アジアにおけるテチス区の発達」第5回国際シンポジウム
10月27日（木）～28日（金）
プレ巡検：10月25日（火）～26日（水）
ポスト巡検：10月29日（土）～11月２日（水）
場所：Hlaing大学（ミャンマー，ヤンゴン市）
http://igcp589.cags.ac.cn/

○第191回地質汚染イブニング・セミナー
10月28日（金）18:30～20:30
場所：北とぴあ901会議室
講師：水谷和子（一級建築士）
テーマ：豊洲地質汚染問題 状況調査虚偽記載についてご報告
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

11月　November

○ユネスコ世界ジオパーク学術研究合同成果発表会 in 東京大学
11月5日（土）13:30～16:00
場所：東京大学弥生講堂アネックス（セイホクギャラリー）
申込不要
http://www.geo-itoigawa.com/sub/topics2016.html#672

○サイエンスアゴラ2016：災害とレジリエンス－平成28年熊本地震災害の教訓－
11月６日（日）10:30～12:00（入場無料）
場所：日本科学未来館7階未来館ホール
主催：科学技術振興機構、日本学術会議
http://janet-dr.com/01_home_calendaer/201611/161106miraikan.pdf

○日本学術会議学術フォーラム：科学者は災害軽減と持続的社会の形成に役立っているか？
11月13日（日）13:00～17:30
場所：日本学術会議講堂
https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html

○2016年度地球惑星科学学生と岩手の会
11月12日（土）～13日（日）
場所：東京大学本郷キャンパス
申込締切：10月28日（金）
https://sites.google.com/site/nyswakate/2016

○第27回地質汚染調査浄化技術研修会
日本地質学会環境地質部会 共催
11月18日（金）～20日（日）
場所：関東ベースンセンター（千葉県香取市）
会費：会員 45,000円（学生35,000円），非会員 55,000円（非会員学生40,000円）※昼食代を含む
http://www.npo-geopol.or.jp/sympo.htm

○International Association for Gondwana Research 2016 Annual Convention & 13th International Conference on Gondwana to Asia
11月19日（土）～22日（火）
場所：インド，トリバンドラム，Residency Tower Hotel
http://www.iagr2016.com

○シンポジウム「熊本地震を踏まえた地域防災力強化の在り方 in 大阪」
主催：地区防災計画学会、情報通信学会災害情報法研究会、（一財）関西情報センター
11月20日（日）13：30～16：30
場所：大阪大学中之島センター講義室304
定員100名・参加費無料
http://www.gakkai.chiku-bousai.jp/ev161120.html

○女子大学院生・ポスドクと産総研女性研究者との懇談会
11月21日（月）13:00～17:00
場所：産総研つくばセンター中央
http://unit.aist.go.jp/diversity/ja/event/161121_div_event.html

○第８回ネパール地質学会
11月27日（日）～29日（火）
場所：ネパール・カトマンズ（詳細未定）
「ネパールの発展と災害対応に役立つ地球科学」を学会の主テーマとし，2015年ネパール地震の特別セッションがある．
http://www.ngs.org.np
問合せ：Dr. T.N. Bhattarai，tnbhattarai@wlink.com.np

12月　December

（協）第32回ゼオライト研究発表会
12月１日（木）～２日（金）
場所：タワーホール船堀
テーマ：ゼオライト，メソ多孔体，およびその類縁化合物に関連した研究の基礎から応用まで
http://www.jaz-online.org/index.html

○第２回防災学術連携シンポジウム「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」
12月１日（木）　10:00～18:00
場所：日本学術会議講堂
http://janet-dr.com/07_event/event13.html

○地質学史懇話会
12月23日（金・祝）13:30～17:00
場所：北とぴあ８階803号室
眞島英壽：「日本海拡大と地球科学の方法論」
石原舜三：「日本の花崗岩研究史」

2017年

1月　January

（協）第14回岩の力学国内シンポジウム：JSRM2017～人類の未来を支えるフロンティア研究と岩の力学～
１月10日（火）～12日（木）
場所：神戸大学百年記念館
http://rock.jsms.jp/jsrm2017/

○4th IGS（international Geoscience Symposium）Precambrian World 2" in Fukuoka
３月３日（金）～５日（日）
場所：九州大学西陣プラザ
Abstract締切：11月25日（金）
http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/precambrian_world/PW2017/top.html

9月　September

★日本地質学会第124年学術大会（2017松山大会）
９月16日（土）～18日（月）
場所：愛媛大学理学部ほか（松山市文京）
（注）松山市内では同期間中に医学系など他学会の開催が予定されています．宿泊予約が混み合うことが予想されますので，早めの宿泊予約をお勧め致します（近年学会を通じての宿泊手配は行っていません．各自でお手配をお願いします）．

第１回防災推進国民大会：報告

８月27日（土）～28日（日）の日程で，東京大学にて**第１回防災推進国民大会「大規模災害への備え～過去に学び未来を拓く～」**（主催：第１回防災推進国民大会実行委員会（内閣府，防災推進協議会，防災推進国民会議））が行われました．

日本地質学会は，本年初頭に日本学術会議と連携する防災学術連携体に加盟し，防災学術連携体加盟学協会は本大会に優先申し込みが可能であったため，一般向けセミナーを行うことにしました．本学会は日本学術会議の提言「地質地盤情報の共有化に向けて　安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備」を推進する立場から，**「都市の地下を知って安全な社会を！」**の内容で８月27日10時から東京大学理学部１号館西棟206室でセミナーを開催しました．

このセミナーでは，大都市の地下には若い時代の脆弱な地層が厚く存在することから，大都市の防災対策に必要不可欠な，ボーリング情報をはじめとした地表・地下の地質情報の収集・公開ついて一般にご紹介しました．一般の参加者は約30名でした．

タイトルと講演者は以下の通り．

「地質・地盤情報ってなんだろう？」（栗本史雄，産総研）

「日本の地下はどうなっているのだろう？」（松浦一樹，ダイヤコンサルタント）

「コンピュータで見る地面の下 ―３次元地質地盤図の利活用―」（野々垣進，産総研）

「空から地面を見てみようー衛星からみた都市と地質災害ー」（岩男弘毅，産総研）

発表の後，質問は紙に書いて出してもらい，それを整理して答えるという方式をとりましたので，質問やコメントが出席者の１/３以上の方からよせられ，充分な質疑も可能でした．

また，８月28日午後に日本学術会議・防災学術連携体が開催した**ワークショップ「火山災害にどう備えるか」**では，火山部会の及川輝樹さんが，地質学は火山の歴史を明らかにできる唯一の学問と述べ，一般の方にも理解して頂いたように思います今後とも，このような防災学術連携体に関わる活動において，地質学の重要性を他分野の方々により知っていただくよう，努力していきたいと考えています．

（前地質災害委員長　**斎藤　眞**）

会場の様子．講演後の質疑応答では，参加者からの質問用紙以外にも直接口頭で質問がでるなどした．講演者には丁寧に答えていただき，充実した内容となった．

筑波大学生命環境科学研究科
博士後期課程地球進化科学専攻では
社会人のための早期修了プログラムを開設しております。

本プログラムは、一定の研究業績や能力を有する社会人を対象に標準修業年限が3年である博士後期課程を最短1年で修了し、課程博士号を取得するプログラムです。

1. 対象：地球進化科学専攻の各研究領域（分野）と関連した研究業績を有する社会人（本研究科の社会人特別選抜合格者）で、早期修了プログラムによる課程博士の取得を希望するもの。
2. 提出書類
   - 早期修了希望調書（最終学歴・専門分野、業務内容と志望分野の関係等）
   - 業績リスト（査読付き学術論文、口頭発表資料他）
   - 自己評価書
   - 博士論文の構想（A4版2～4枚程度、書式自由、課題や関連分野の調査等）
3. 申請条件：筆頭著者の原著論文2編以上（査読付き国際学術雑誌に掲載済みもしくは受理・掲載可・印刷中(in press)）
4. 平成29年度2月期入試は平成29年2月１日（水）に行われます。口述試験（個別面接）修士論文（またはこれまでの研究）及び入学後の研究について発表をして頂きます。

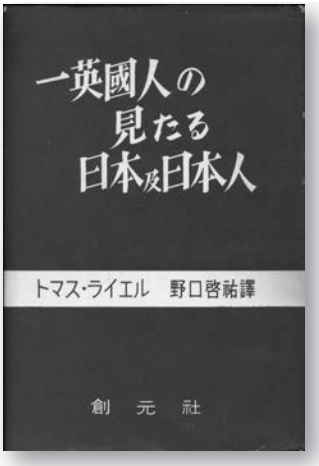
説明会：東京キャンパス文京校舎　平成28年11月6日（日）13：30～15：00
筑波キャンパス:(春日地区)　平成28年11月11日（金）18：30～20：00

早期修了プログラムの詳細　http://www.souki.tsukuba.ac.jp/
地球進化科学専攻　http://www.geol.tsukuba.ac.jp/application.html

TOPIC

トリビア学史　2
日本にライエルの孫が来た？ビーグル号が来た？

矢島道子（日本大学文理学部）



ニュース誌８月号の「トリビア学史１」は明治の初めの日本人の奮闘を記したものだが，今回は洋物（カタカナの名前）の話である．なお，これはと思われる珍しい記録・情報などあったら，「トリビア学史」にどしどし投稿されることを歓迎します．

ライエル

チャールズ・ライエル（Charles Lyell　1797-1875）は『地質学原理』の著者として，（『地質学原理』を読んだことがなくても）地質学を志した人ならば誰でも知っている．その孫が日本に来たという話がある．

谷沢・渡部（2008）は，その著『日本人とは何か‐「和の心」が見つかる名著』の61ページでトマス・ライエル（1950）の著『一英國人の見たる日本及日本人』を紹介している．写真は佐藤正氏の所蔵されていたものである．古本屋で購入するとかなり高価である．谷沢・渡部は「トマス・ライエルは…チャールズ・ライエルの孫です．ケンブリッジ大学を出て，詩人でもある．戦前から日本のいろんな学校で教えたりして，戦前も30年近く日本にいた．敵性外国人として一時日本を離れざるをえませんでしたが，戦後いちばん最初に民間イギリス人の先生として日本に来た人です」と書いている．また渡部は「ライエルが上智大学で教授になった年に僕は入学しました」と書き，その授業および，その著書を紹介している．

ほんとうだろうか．私は早速，ライエルの研究家であるミネソタ大学のLeonard G. Wilsonに連絡した．返事は以下のようで，どうやら一族であることは間違いなさそうだが，チャールズの孫ではあり得ないむねが書いてあった．

From: Leonard Wilson,
To: Michiko Yajima
Sent: Saturday, March 29
Subject: Re: Thomas Lyell in Japan
Dear Michiko Yajima,
It is a pleasure to hear from you. With regard to your question, Sir Charles Lyell had no children. His brother Colonel Henry Lyell had three sons and a daughter. One of his sons, Francis Horner Lyell, had two sons, one of whom Thomas Reginal Guise Lyell, born 3 April 1886, may have been the Thomas Lyell who taught English at a university in Japan in the 1930's. in 1930 he would have been forty-four. He is said to have died abroad, but otherwise I know nothing of his fate. He was a great nephew of Sir Charles Lyell, but not a grandson.
With best wishes
Sincerely,
Leonard Wilson

渡部は直接トマス・ライエルに接しながら，どうして勘違いしたのか不明である．

ビーグル号

1970年代，地質学教室の学生だった頃，「ダーウィンの乗ったビーグル号は日本に来たらしい」という話を聞きこんだ．その時にもビーグル号はビーグル号だが違うビーグル号だとも聞いた．出典はどこだか調べてもみなかった．明治以来，いくつもの説があったようだ．ダーウィン生誕200年，『種の起原』刊行150年を記念して刊行出版された松永（2009）によくまとめられている．

イギリス海軍にはビーグル号という名の艦船がいくつも登場する．日本に来たビーグル号は日本名を乾行という．1854年に建造された，元イギリス海軍の機帆船523t，177feetのビーグル（HMS Beagle）は，民間に売却され，薩摩藩が1864年に購入，長崎で受領し「乾行丸」と命名された．戊辰戦争で活躍し，1870年には新政府へ献納され，兵部省所管となり，「乾行」と改名された．その後，練習艦として使用されたり，浦賀に係留されたりしていたが，1889年に売却された．1911年に動物学者の渡瀬庄三郎がダーウィンのビーグル号ではないことをすでに明らかにしている．

ダーウィンの乗船したビーグル号のほうは，イギリス海軍の10門の砲を搭載した純然たる帆船で235t，90feetである．1820年に建造され，ジョージ４世の戴冠式を祝う観艦式に参加し，新しいロンドン橋の下をくぐった最初の船となった．その後3度の探検に参加した．２度目の航海1831年から1836年ではチャールズ・ダーウィンが乗船した．３度目の航海を終えて，1870年に売却され，解体された．今では，ビーグル号の情報はかなり流布し，wikipediaや各種科学史の本にほぼ常識として掲載されている．

文　献

谷沢永一・渡部昇一，2008，日本人とは何か‐「和の心」が見つかる名著，PHP選書．201p.
ライエル，トマス，1950，一英國人の見たる日本及日本人，創元社．349p.
松永俊男，2009，チャールズ・ダーウィンの生涯‐進化論を生んだジェントルマンの社会，朝日選書．321p.

『フィールドジオロジー全９巻』電子本の販売が開始されました．

フィールドジオロジーシリーズは，2004年４月に第１巻（フィールドジオロジー入門）と第３巻（堆積物と堆積岩）の出版を皮切りとして，2015年９月に第８巻（火成作用）と第９巻（第四紀）が出版されて，全巻完結しました．10年以上の長期間にわたっての出版でしたが，著者の皆様の努力と読者からの励ましで，全巻を出版することができました．読者対象を，地質学専攻の学部学生，専門は異なるが地質学の基礎を学びたい大学院生・実務担当者・地質技術者，アマチュアとしたこともあり，順調に販売の実績をあげてきました．会員の皆様はじめ，読者のご支援のたまものと感謝しています．

フィールドに直接持参し露頭の前で開いて使うことを考え，本の大きさを調査鞄に入るB５版としました．しかし，全９巻を重ねると11.5 cmの厚さになり，とても一度にフィールドに持っていくことはできません．全９巻を露頭の前で活用してもらうためにも，本書の電子化は長年の課題でした．電子本は，Amazonで購入してKindleで読むことができます．また，スマートフォンやタブレットでも読むことができます．最近では，防水のスマートフォンも発売されていますので，野外で活用する条件がますます整ってきたと思います．これを機会に，ぜひご購入ください．

Googleによる様々な検索，シームレス地質図，電子クリノメーターもあわせて使うことにより，より深い露頭観察が可能になります．IT技術を活用した新しい時代の野外調査の展開といえるのではないでしょうか．野外調査の武器は，古典的にハンマー，ルーペ，クリノメーターと決まっていましたが，近年新たな武器が加わってきました．新しい武器とともに21世紀型の新しい地質調査法が生まれることを期待しています．

（フィールドジオロジー刊行委員会
編集幹事　天野一男）

▶▶Amazon_Kindle版の購入はこちらから，
https://www.amazon.co.jp/dp/4320046811

学会オリジナルフィールドノート　好評発売中！

卒業記念やイベントでのグッズに！

ご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートは，名入れサービスも承ります（有料）。
ビニールコーティングの表紙は，水や摩擦・衝撃にも強く野外調査に最適です。ぜひご活用ください。

サイズ：12×19cm.
中：レインガード紙使用．2mm 方眼.
カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し.
色：ラセットブラウン（小豆色）

定価 600円（会員頒価 500円）

ご注文・お問い合わせは，学会事務局まで <main@geosociety.jp>

☆関東支部

報告

清澄フィールドキャンプ　実施報告

2016年８月29日から９月４日に，関東支部は東京大学千葉演習林・千葉大学海洋バイオシステム研究センターを宿舎として，京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室の御支援・御指導のもとイベントを実施しました．

今年は関東に接近する台風による川の増水を気にしつつ，清和県民の森など主に道路沿いの露頭を中心に観察しながらの立ち上がりでしたが，その後は天気にも恵まれたため，支流の奥深くへも入ることができました．昼間は一日中沢歩きをして，夜は宿舎でルートマップの記載とフィールドノートへの墨入れ，そして柱状図が完成するまでは寝られない（寝かせない）のも恒例行事です．人里離れた非日常!?の空間において肉体的にも頭脳的にも追い込まれる１週間を送ることは，参加者にとって貴重な経験となったことでしょう．

京都大学との共同実習終了後の最後の１泊は，海岸沿いの露頭でこれまでの調査地域内で見られた鍵層との産状の違いを観察しつつ，宿舎を海岸沿いに移して関東支部独自のプログラム（断面図作成）に挑みました．１週間というハードな日程を終えた修了者達は今後，フィールド調査において一味違う活躍ができると確信しております．

開催にあたり，京都大学の山路敦教授，佐藤活志助教など２名のTAを含む地質学鉱物学教室の方々から多大なるご支援を受けました．また，東京大学千葉演習林の方々ならびに千葉大学理学部金川久一教授，亀尾浩司准教授にも機材や宿舎の手配など，実施にあたり多大なるご協力をいただきました．以上の方々のご支援で，今年もフィールドキャンプを成功させることができました．ここに厚く御礼申し上げます．

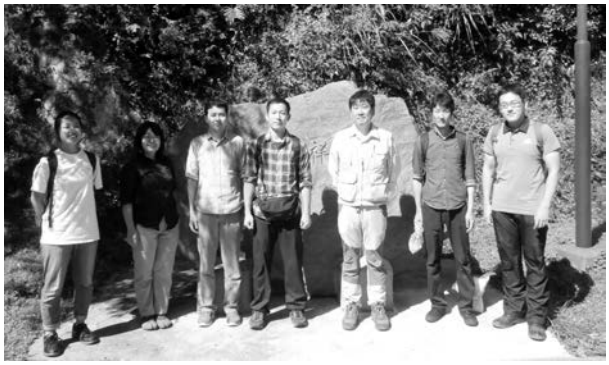
（関東支部幹事　**河村知徳**　石油資源開発（株））

＜参加者の感想＞

これまで泊りがけの実習の経験がなくとても不安でした．はじめは訳のわからないまま，言われたとおりに走向傾斜を測り，地図に書き込んでいただけでしたが，実習の最後には層理面や断層面の広がりをイメージできるようになりました．それも指導者の皆様が質問しやすい雰囲気の中，理解できるまで丁寧に粘り強く教えていただいたおかげです．実習中に見られる鍵層がつながらない原因の断層が見つかったとき，断層が思っていた場所に出てきたときはとても嬉しかったです．自身の反省点としては，現在位置を特定する能力です．地図上の地形で場所を決めてしまいがちなので，支流の沢の上流など地図に表れないカーブが続くようなところでは，位置が分からなくなりました．これからは距離感も鍛えたいと思います．最後になりましたが，地質調査の基礎を学べる機会を設けていただき，ありがとうございました．大変多くの学びがあり，遠方から参加したかいがありました．ハチには気をつけて今後の研究に生かしていきたいです．

（**糸本夏実**　同志社大学修士２年）

地質調査の基礎を学びたいと思い今回のフィールドキャンプに参加させていただきました．最初のうちはクリノメーターの使い方や露頭でのスケッチの仕方など，基本的なところからわからなかったため，野外実習では常に最後尾で京都大学の方々についていくのに必死でした．今回のフィールドキャンプで地質調査がどういうものなのか，自分に足りないものは何なのかを知ることができました．



メンバー集合写真（東京大学千葉演習林にて）．左より吉原（日本大），糸本（同志社大），森本（立正大），森田（専修大），河村（関東支部幹事），佐野（筑波大），菅谷（筑波大）．

（**森田真之**　専修大学４年）

私は，卒業論文のための地質調査の基礎を再確認するために，このキャンプに参加したのですが，結果的に，当初私が思った以上の経験をすることができました．勉強面はもちろんですが，特に私の中で影響が大きかったことは，他大学のパワーを感じ取ることができたことです．いつも触れている空気とは全く違う空気感で他大学の仲間と交流することもでき，とても刺激になりました．これから卒業論文を書くに当たってのモチベーションならびに，これからの自分の学生生活に大きな影響を与えたと思っています．

（**吉原　遙**　日本大学４年）

沢歩きの装備や調査道具の使用方法など，基礎的な事項を事前にご指導頂けたので，経験不足の私でも比較的スムーズに調査に臨むことができました．実際の調査では，地層の走向・傾斜の測定，岩相の観察，露頭柱状図の作成など多くの作業をこなしつつ，様々な観察事項に目を向けて考察しながら歩くことの難しさを実感しました．特に，断層による地層の変位をその場の観察によって見極めることには苦労しましたが，予想される場所で追跡していた凝灰岩層が見つかった時の喜びは，調査の疲れを吹き飛ばしてくれました．夜業ではルート柱状図の作成が深夜まで及び，眠気と闘いながらの作業でしたが，時間をかけて取り組むことで調査地の岩相層序について理解することができました．また，ステレオネット投影による褶曲軸の決定や断層条線のトレンド・プランジの投影方法なども丁寧にご指導頂き，知識を深めることができました．土曜日に訪れた勝浦の海岸では有名な黒滝不整合を実際に観察することができ，良い経験になりました．慣れない作業が多く戸惑うことが多々ありましたが，皆様の丁寧なご指導のもと，充実した一週間を過ごすことができました．

（**佐野喜成**　筑波大学３年）

自然地理学・地形学を専攻してきましたが，地形をより理解するには地質の知識を深めなくてはいけないと考え参加しました．地質学を主体とした実習は慣れないこともあり，理解が追いつかない時が多々ありましたが，その度に丁寧に教えて頂きました．フィールドでの地質の見方や露頭スケッチ，調査を終えてからの柱状図や地質断面図の作成など全ての作業が新鮮で，貴重で有意義な経験を積むことができました．その中でも

本流の沢で観察した鍵層が支流の沢でも発見できた時には調査の醍醐味を感じました．実習を終えてから個人的に沢を歩きました（支部注：森本氏は演習林の札郷宿舎に泊まって付近の調査を行っています．通常，演習林内の沢に入る場合には申請が必要です）が，その際に走向と傾斜を意識しながら地形，地質を観察できるようになったのは一歩前進したと思いました．今回学んだことを次の機会に活かしていこうと思います．

（**森本　拓**　立正大学修士２年）

地質調査は現在の分野にいる限りはどうしても付いて回ってくる事柄だと思い，このイベントへ参加させていただきましたが，如何に自分が今までの大学の授業で「テキトー」にこなしてきたのかということを痛感しました．調査や作業において遅れをとることが多く，京都大学の学生との練度の差を感じました．それにより先生方やTAの方々に多大な迷惑をおかけしたと思います．またこのフィールドキャンプと切っても切り離せないものとしまして，ヤマビルの存在があります．ヒルにとって丁度良い湿度だったのもあるのでしょうが，自分は計６カ所噛まれてしまいました．靴下や大量のガムテープで対策をしていたつもりでも（露頭での作業に集中しているうちに）上から落ちてきたり，（チェックをかいくぐり）服の隙間に潜んでいたヒルに後で噛まれたりなど，対策に終わりはないなと感じましたが，何れにせよ良い経験をさせて頂きました．今後も精進したいと思います．

（**菅谷　崚**　筑波大学３年）

＜卒業生の声（東京桜上水大会関東支部広報ポスターより）＞

フィールドキャンプに行ってよかったと感じたことは，まさにフィールドを知る機会を得たことです．私は現在測量を中心とした仕事に携わっています．その業務上のフィールドも，熊の出没する山中やヤマビルが大量にいる沢に下りての作業が現実のものとなっています．仕事上厳しい自然のなかを歩く，調査するという場をリアルに経験しています．フィールドキャンプは，そのような場を大学生活のうちから体験させてくれる貴重な機会だと思います．また地質を仕事にと考えている人は，フィールドを知るだけでなく地質調査で何を視るのか，そこから何を考察するのかをきちんと教えてもらえるので，私にとってやりとげる価値があるものだったと思います．

（**鶴田達也**：2014年度受講）

☆関東支部　お知らせ

大磯丘陵北西部・火山灰ミニ巡検のお知らせ

2016年度関東支部総会にて，神奈川県大井町メガソーラー発電所「きらめきの丘おおい」の箱根東京テフラ露頭保存に関して，神奈川県大井町と（株）古川が支部功労賞に表彰されました．

今回のミニ巡検は，この保存露頭と付近の沢（菊川）に露出する多摩ローム層相当のテフラを巡ります．電車と徒歩の巡検になります．沢の水量は少なく，長靴は必須ではありませんが，大変滑りやすいので杖があると便利です．昼食と飲料水をご持参ください．なお，現地にはトイレがありませんので，あらかじめご承知おきください．雨天中止です．

主催：日本地質学会関東支部
実施日：2016年11月26日（土）（雨天中止）
対象：会員
募集：20人（先着順）
講師：笠間友博　神奈川県立生命の星・地球博物館
集合：10:10　JR御殿場線　上大井駅
解散：16:10頃JR御殿場線　上大井駅
本数の少ない路線ですので，駅到着から電車到着まで30分程度待つ場合もあります．
費用：保険代他1000円（当日集金）
CPD単位：５単位
申込み・問合せ：メールにて下記担当者まで．（**申込締切：11月17日（木）まで**）
件名は見落とし防止のため「火山灰ミニ巡検申し込み」として下さい．
氏名，所属，日中連絡の付く電話番号を記入して下さい．
申込者全員に，受付結果についてのメールを返信します．
後日，参加者は保険申込のため性別，住所，生年月日をお伺いします．
担当　関東支部幹事　小田原　啓（神奈川県温泉地学研究所）
odawara@onken.odawara.kanagawa.jp

地磁気・古地磁気・岩石磁気夏の学校 2016 参加報告

北原　優
（九州大学大学院 地球社会統合科学府
博士課程２年）
田渕　優
（高知大学大学院 総合人間自然科学研究科
理学専攻 災害科学分野 修士課程２年）

2016年８月31日～９月２日の３日間にわたり，高知大学海洋コア総合研究センターにおいて『第48回 地磁気・古地磁気・岩石磁気 夏の学校』が開催された．本稿の前半では，一般講演・特別講演・ポスターセッションおよび懇親会の様子について北原が報告する．また後半では，２日目に行われた巡検について田渕が報告する．

地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会と「夏の学校」

地磁気・古地磁気・岩石磁気研究会は，2011年度に地球電磁気・地球惑星圏学会（SGEPSS）内のひとつの分科会として設立された組織であり，おもに「地球・惑星磁場の様子，成因起源，変動や昔の姿」や「岩石や鉱物が持つ磁気的特徴の理解とその応用」，「プレートテクトニクスや大陸移動」，「海洋底や陸上の磁気異常」，「古気候・古環境」などの古地磁気学や岩石磁気学に軸足を置いた研究に取り組む研究者や学生が集う研究会である．同分科会では（前身となる古地磁気・岩石磁気分科会の時代より）日本各地の大学や研究機関の持ちまわりで「勉強会」あるいは「夏の学校」と呼ばれる研究集会を毎年開催してきた．この会合は1960年代にスタートして以来，今年で第48回を迎える．ここでは，普段の学会講演では語られないような研究のレビュー，細かな実験技術の話，将来計画の話，学部生・大学院生向けのレクチャーなどさまざまな講演がなされる．私は2011年に熊本の阿蘇（熊本大学主催，阿蘇白雲山荘）で開催されたときから６年間，毎年この「夏の学校」に通い続けてきたが，ここで学んだ知識やディスカッションの内容が自身の研究を進めるうえでの糧となっているように感じる．

一般講演

初日と３日目（最終日）の午前中には，学生や研究者らによる口頭発表が高知コアセンター新棟のセミナールームにおいて行われた（写真１）．今回の夏の学校では17名の講演者によってさまざまな時間スケールの古地磁気変動の話や最新の実験技術，統計解析手法，アウトリーチ活動における諸問題といった多岐にわたる話題が提供された．とくに今年は各セッションの座長を博士課程の学生が務めたこともあり，普段の学会とは異なった和やかな雰囲気の中で発表が行われた．どの発表もとても興味深いものであり，各発表者の持ち時間はプログラム上では20分ということになっていたが，質疑応答の時間には質問やコメントが尽きず，大幅に時間を延長して侃々諤々の議論が展開された．私自身も，全球的な統計データベースに登録されている考古地磁気強度データのレビューと最新の実験手法を適用した日本における研究例について発表をさせていただいた．そして発表後の質疑の時間には，幾人かの先生方から今後の研究の進め方に関するアドバイスや現状の問題点に関するご指摘を賜った．ご指摘いただいたことの多くは私自身これまで見落とし

写真１　講演会場での集合写真．

していたことや気付いていなかったことがほとんどであり，自分の研究を見直す良い機会となった．

特別講演

初日の一般講演の終了後には，今年度で高知大学をご退官される小玉一人先生を講師に迎えての特別講演が行われた．同講演では「室戸岬の火山岩体はdikeかsillか：古地磁気学的アプローチ」と題し，先生が数十年前に取り組まれた高知県南部・室戸岬周辺の火山岩体に関する研究の概要についてのお話をしていただいた．この研究は，室戸一帯に分布する複雑に変形した構造を持つ火山岩体の起源が，地層面を横切るように貫入した岩脈（dike）なのか，それとも平行に貫入した岩床（sill）なのかを判定することを目的として行われたということだが，これを解明するためのすべての過程を古地磁気学的アプローチのみによって行ったというお話であった．火成岩が記録する古地磁気方位を復元して冷却時の位置を調べたり，帯磁率異方性を測定して岩体の動きを推測したりしていったというお話は，同じく古地磁気学や岩石磁気学を学ぶ学生として，とても刺激的で興奮した．また，海岸一帯で何百個ものコアサンプルを採取されたときの苦労話や，古地磁気学界と地質学界での業界の気風の違いといった普段のフォーマルな場では聞けないような話題もあり，とても興味深く聴かせていただいた．

ポスターセッションおよび懇親会

ポスターセッションは口頭発表が行われたのと同じコアセンター新棟のセミナールームにて催され，全国から集まった学生や研究者の懇親会を兼ねたコアタイムが初日の特別講演後に行われた．ここでは17名の学生および研究者が各自の取り組む研究に関する発表を行った．発表テーマは一般講演と同様，非常に多岐にわたるものであった．場の雰囲気としては，２時間という長丁場ではあったが，今年度の主催者である高知大学の皆様が用意して下さった皿鉢料理を囲みながらセッションが行われたこともあり，始終賑やかでリラックスした雰囲気の中で議論が交わされた．私自身も現在取り組んでいる大阪府の古代の須恵器窯跡（陶邑窯跡群）から採取された焼土試料を用いた古地磁気強度復元に関する発表をさせていただいた．今回の夏の学校には私と同じく「古地磁気強度実験」に取り組んでいる学生が複数参加していたため，いろいろな意見交換もでき，とても充実した時間を過ごすことができた．また２日目の夜にはコアセンターのエントランス前にてBBQが行われ，より打ち解けた雰囲気の中で多くの学生や研究者の方々と交流することができた．

来年度の『地磁気・古地磁気・岩石磁気 夏の学校』は九州大学の主催により福岡県で開催される予定である．今年に劣らず様々な分野における研究成果の報告や多くの学生や研究者に

左から，写真２　小玉一人教授とその生痕化石（サンプリングの跡）．写真３　室戸岬で藤内智士助教授の解説を聞く参加者．

よる活発な議論が行われることが期待される．

巡検報告

夏の学校２日目には室戸巡検が企画されていた．巡検は，高知大学の藤内智士助教授に案内していただき，総勢30名もの大所帯で高知県東部の四万十付加体を見学した．前日までの疲れもあり，車内ではうとうとする学生や他大学の教員・学生が交流する姿がみられた．筆者は初参加であり，分野も少し異なっているため不安な気持ちでバスに乗っていたが，隣に座られていた山崎俊嗣教授に優しく声をかけていただいたおかげで，気持ちが楽になり交流を深めることができた．

まず向かったのは，芸西村住吉海岸に露出する芸西メランジュ（手結メランジュ）である．ここは高知大学を中心とするグループが四万十帯付加体説を決定づけた重要な露頭である．芸西メランジュは，黒色の頁岩中に砂岩を中心とするブロックが多数含まれるblock－in－matrix構造に特徴づけられ，遠洋性堆積物や海洋地殻物質もみることができる．高知大学のグループによって放散虫化石を元に年代ギャップが存在すること，古地磁気を用いて玄武岩と陸源性堆積岩には古緯度差が30度近くあることなどが明らかとされた．当時古地磁気を測定したのが今回の校長先生である小玉一人教授だったそうだ．芸西メランジュでは，玄武岩の枕状溶岩・ナノ化石の石灰岩・層状チャート・多色頁岩・陸源性堆積岩の順に海洋底層序が復元できると考えられており，白亜紀の約5000万年間の海洋プレートの移動を感じることができる．参加者は，それぞれの岩相を順に観察し，断層などにより複雑化した海洋底層序を前に議論を交わしていた．漁港の工事によってかつてより露出は減っているとのことだったが高知市内からのアクセスも良く，素晴らしい露頭であった．

次に向かったのは，室戸世界ジオパークセンターだ．センターには，大地のなりたち・大地と人の共生・人のいとなみと題した３つのブースがあり，地質だけでなく室戸での地球と人のいとなみのつながりを知ることができる．ブースには，室戸の地質に関する資料や簡単に使える顕微鏡，工夫された手作り教材などがあり，五感を使って楽しめるよう工夫されていた．さらに，センター内にはカフェが併設されており，室戸の食材を使ったサンドイッチや季節の自家製ドリンクなどがいただけるようになっている．見学を終えた数名はセンター向かいの海岸にも足を伸ばしていた．ここには，上部漸新統の日沖メランジュが露出しており，変形体に貫入したドレライト岩脈をみることができる．

最後のStopは室戸岬であった．室戸岬では斑れい岩やタービダイト，隆起の痕跡などを見学した．室戸斑れい岩体は，中新世に四万十付加体に貫入したシル状の火成岩体である．貫入時は周囲の地層と同様に水平であったが，その後の付加作用に伴い傾動したと考えられている．同時期に貫入した火成岩が高知県足摺岬や紀伊半島などにもみられ，中新世中期の火成活動が非常に活発であったことを物語っている．当時のテクトニクスを理解する上で室戸岬は非常に重要な場所のひとつである．貫入岩体は，幅が200 m程度あり貫入当時の鉛直断面を観察することができる．岩体内部では岩相変化や層状構造，斜長石に富む岩脈などを観察することができた．ここにも小玉先生の生痕化石ともいえるサンプリングの跡があり，それを前に撮影会が行われた（写真２）．その後，遊歩道を進みタービダイトを観察した（写真３）．ここでは，層理面が高角に傾斜しており，堆積構造や褶曲，タフォニなどの多くの構造を観察することができた．野外調査よりも研究室で分析をする機会の方が多い学生は，本でみたことのある構造を食い入るように探していた．堆積構造を元に地層の上下を判定すると数mほどで上下が反転している箇所がみられ，褶曲によって地層が折り重なっている可能性が伺えた．さらに，室戸岬で観察することができるものは岩石だけではない．その上に住む生物の痕跡も見どころのひとつである．中でもヤッコカンザシというゴカイの仲間がつくる巣は，地殻変動の推移をみる指標となるそうだ．ここでは，潮間帯で作られたヤッコカンザシの巣が複数の高さにへばりついているのをみることができる．そして，振り返れば海成段丘がそびえ立っている．海成段丘は，大地の隆起と海水準の変動によって形成される地形であり，これらは室戸岬が隆起している確かな証拠である．

室戸巡検に行く機会は非常に多い．しかし，行くたびに新たな発見や解釈を手にすることができる．さらに，今回の巡検では今まであまり交流のなかった古地磁気を専門とする多くの方々と交流することができた．今後もこのような機会を大切に邁進していきたいと思う．今回は急な参加であったにも関わらず，快く引き受けてくださった世話人の山本裕二准教授や案内人の藤内助教，夏の学校の参加者の皆様に，この場をお借りしてお礼申し上げたい．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e-mailでいただければ幸いです．

kouzu_0419@geol.tsukuba.ac.jp　高津翔平（筑波大）
16nd204l@vc.ibarkai.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）
k0231215@kadai.jp　山下大輔（熊本大）
yamada-masataka1@ed.tmu.ac.jp　山田眞嵩（首都大）

2017年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2017年４月～2018年３月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2017年４月～2018年３月分会費
正会員	12,000円
〃　（院生割引）※　要申請	8,000円
〃　（学部学生割引）※　要申請	5,000円

※学部に在籍している学生の方，定収のない大学院生（研究生）の方で，それぞれ所定の書式で申請をされた方にのみ割引会費を適用します．なお，2016年度までの学部学生割引・院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2017年度会費にのみ適用となります．

１．自動引落を登録されている方の引き落とし日は12月26日（月）です．

2017年度分会費の引き落とし日は12月26日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」,「SMBC」などと表示されますので，必ずご確認下さい．

２．自動引き落としをご利用下さい．

新たに会費の引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を11月14日（月）までに事務局までお送り下さい．また，すでに引き落とし手続きが完了している方で，学部学生割引と院生割引会費の適用を希望される学部生，院生（研究生）の方は11月21日（月）までに学部学生割引会費・院生割引会費申請書をご提出下さい．期日までにご提出いただけない場合は，正会員の会費で引き落としがかかります．ご了解下さい．

３．上記以外の方（お振り込み）

12月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

一般社団法人日本地質学会　会計委員会

一般社団法人日本地質学会運営規則

第２章　第７条（会　費）

学会は会費の年額（４月１日～翌年３月末日）を次のように定め，会員は当該年度の初日までにこれを支払うこととする．入会の際には当該年度の年額を支払うこととする．

(1) 正会員：12,000円
ただし，大学学部ならびに大学院に在籍するものは，毎年度ごとに所定の申請書を提出した場合，それぞれ学部学生割引と院生割引を適用し，年会費を5,000円ならびに8,000円とする．これらに準じる身分の学生についても同様の扱いとする．

(2) 賛助会員：１口25,000円，２口以上
ただし，諸般の事情により理事会が認める場合は，１口とすることができる．

2　会費の変更は，理事会の議決により，総会の承認を得なければならない．

3　会員は，上記に定める会費を当該会計年度の前に一括納入しなければならない．ただし，やむを得ぬ理由により理事会が認める場合は，分納もしくは減免することができる．

4　会費を滞納した会員については次の処置をとる．

(1) 滞納期間が６ヶ月以上となった場合には，地質学雑誌等の会誌の送付を停止する．

(2) 滞納会費が納入された場合には，送付を停止した地質学雑誌等の会誌の送付を再開する．ただし，会誌の在庫の関係で送付ができないことがある．

(3) 地質学雑誌への投稿，講演会での講演を制限することがある．

(4) 会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，滞納４年度目をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2017年度（2017．4〜2018．3）学部学生割引・院生割引会費の受付開始

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．つきましては，次年度（2017年度）の会費についての申請受付を開始いたしますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．**会費請求書発行の都合もありますので，請求書発行前の受付〆切りは11月21日（月）といたします．とくに口座自動引落で会費を納入されている方は，この期日までに申請書をご提出下さい．なお，これまで（〜2016年度）の学部学生割引・院生割引会費についての申請受付は終了していますので，2017年度分の申請のみ適用となります．**

★注意★
毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．
2017 年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒 101-0032　東京都千代田区岩本町 2 ー 8 ー 15　井桁ビル 6 階
一般社団法人日本地質学会

2017 年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中
私は，運営規則第 2 章第 7 条第 1 項（1）に基づき，2017 年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：
会員氏名：
現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期　・　後期 年在学中

2017 年 4 月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．
指導教員（等）
所属：
氏名：　　印

請求書発行前受付〆切
2016 年 11 月 21 日（月）

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています．

2016年度
第１回理事会議事録

日　時　2016年５月21日（土）15:30～16:10
会　場　北とぴあ　第二研修室（北区王子１-11-１）
出席役員　理事（35名）：天野一男　安藤寿男　市川八州夫　井龍康文　緒方信一　岡田　誠　川端清司　川辺文久　清川昌一　斎藤　眞　佐々木和彦　坂口有人　澤口　隆　菖蒲幸男　杉田律子　竹下　徹　田村芳彦　田村嘉之　辻森　樹　内藤一樹　中澤　努　仲谷英夫　西　弘嗣　楡井　久　廣木義久　福冨幹男　星　博幸　保柳康一　松田達生　松田博貴　向山　栄　矢島道子　山田泰広　山本高司　渡部芳夫
監事（１名）：山本正司
欠席役員　理事（11名）：有馬　眞　上砂正一　大藤　茂　笠間友博　狩野彰宏　亀尾浩司　小宮　剛　沢田　健　奈良正和　平田大二　三田村宗樹
監事（１名）藤本光一郎
その他出席者 事務局：橋辺菊恵

＊成立要件：理事総数46名の過半数24名　本日の出席者35名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数18名

＜開催にあたって＞
１）理事及び監事自己紹介　自己紹介をした．
２）議長代行の指名　前期理事会副議長の向山理事を指名した．
３）書記の指名　保柳理事と星理事を指名した．

審議事項
１．会長＝代表理事および副会長として下記のとおり選出した．
会　長：渡部芳夫
副会長：松田博貴（支部長連絡会議），山本高司（名誉会員推薦委員会）

２．執行理事の選出，部会長の選出
渡部新会長より次の方々および担当の推薦があり，承認した．○印は部会長．
常務理事：斎藤　眞
副常務理事：安藤寿男
運営財政部会：○緒方信一（総務，会員），西　弘嗣（財政）
広報部会：○坂口有人，小宮　剛（企画出版兼務），内藤一樹（広報部会での３名の分担は未定）
学術研究部会：○岡田　誠（行事委員会），山田泰広（専門部会連絡委員会）
編集出版部会：○中澤　努（地質学雑誌），田村芳彦（IAR）
社会貢献部会：○平田大二（連携事業），杉田律子（公益事業，研修事業），廣木義久（教育），辻森　樹（「県の石」推進委員会）

３．理事会議長・副議長の選出
斎藤理事より次の方々の推薦があり，承認された．
議長：向山　栄，副議長：佐々木和彦

４．業務委員会の確認
渡部会長から執行理事会の業務委員会の特任担当ならびに理事会の下の委員会の特任担当の指名があった．なお，法務委員会については，今後，委員会の再構成を検討することが報告された．
特任理事：松田達生（防災広報アウトリーチ），井龍康文（国際交流），清川昌一（広報フォトコンテスト実行委員会），川辺文久（文科省リエゾン）矢島道子（125周年記念事業），天野一男（ジオパーク支援委員会）

５．各賞選考委員会委員の選出
渡部新会長より専門を考慮して次の10名の推薦があり，承認された．
任期は２年
天野一男，笠間友博，亀尾浩司，清川昌一，澤口　隆，田村嘉之，狩野彰宏，竹下　徹，保柳康一，星　博幸，
役職指定委員：前・現の地質学雑誌・アイランドアーク編集長および副編集長
小嶋　智，山路　敦，大藤　茂，岩森　光，伊藤　慎，海野 進，武藤鉄司，田村芳彦

６．その他
１）次回以降の理事会開催日程について確認した．
確定　９月９日（金）　北とぴあ　会議室　13:30～17:00，12月３日（土）の開催を決め，会場予約を行うこととした．

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2016年５月21日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長　　向山　栄
理事会副議長　佐々木和彦
前任代表理事　　井龍康文
代表理事（会長）渡部芳夫
（以下，理事氏名略）

2015年度
第10回執行理事会議事録

期　日：2016年４月２日（土）10:30～12:00
場　所：北とぴあ901会議室
出席者：井龍会長　山本副会長　齋藤常務理事　ウォリス　海野　緒方　坂口　杉田　竹内　中澤　平田　保柳　松田　山路（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：渡部副会長　廣木　星
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状３名，合計17名の出席．
＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項
１．地質学雑誌のあり方を考えるタスクフォース委員会の設置
斎藤さん→まとめ役，出版経費の検討（本日の議論を理解している必要があることと，次期への継続性を考えて，財務担当執行理事ではなく，斎藤さんが適任）．
中澤さん→次期の学術出版委員会で，地質学雑誌の担当
小宮さん→ニュース誌の編集委員長，同誌を含めて検討する方がよい．
藤野滋弘氏（筑波大）と大藤茂氏（富山大）→山路編集委員長の推薦により，編集委員会から２名選出．
２．県の石プロジェクトチーム（出版に向けてのチーム）の設置
井龍＝総括，辻森＝岩石，門馬（非会員）＝鉱物，重田＝化石
３．メール審議の議事録について
メール審議の議事録は，これまで次回の理事会で報告確認をするにとどめていたが，法的にはメール審議も理事会を開催したものとみなすことが指摘された．今後議事録は，法律に定められている通り残すことにする．ただ，議案について全員の賛成が必要なのか，議決についての全員の承認が必要なのかについては顧問の高木先生に確認する．
４．理事会議事運営について
議長・副議長とともに報告・議案等を確認した．

Ⅱ　報告事項
１．全体的報告
１）フィールドジオロジー（共立出版）の電子書籍化の契約書について
２）The Geology of Japanの予約と会員向け販売価格について（ウォリス）
１冊7,000円（送料込）に設定．万一為替が大きく変動した際には，変更もあり得るが，予約部数の目標を200部とし，目標部数を達成した場合は，設定価格より安く提供することが可能．ただし，値引きは会員のみ．５/26〆切でNews誌，geo-flash等で宣伝する．
２．運営財政部会：総務委員会（緒方）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・山田科学財団：2019年開催の国際学術集会助成の募集，募集期間2016/４/１-2017/02/24（150人規模，800万円以内）→News誌，geo-flashに掲載
・藤原科学財団「藤原セミナー」の募集，2017/１-2018/12開催のもの，２件，総額2400万円以内（７/31〆切，学会〆切６/30）→News誌，geo-flashに掲載
・三浦半島活断層調査会：城ケ島観察会（５/22）の後援依頼を承諾
＜会員＞
１）今月の入会者（３名）
正〔院割〕会員（３名）：本多睦美，金子翔平，綿貫峻介
２）今月の退会者（168件）→回覧　2015年度末退会者・除籍者一覧
退会者（107件）：賛助会員１団体，正会員106名（うち院割 ６名）
除籍者（61名）：正会員　61名
３）今月の逝去者（１名）
名誉会員（１名）：岩崎正夫（逝去日：2016年３月31日）
４）永年（50年）顕彰会員，24名
石田　高　石原舜三　上野三良　上野輝彌　植村和彦　遠藤忠慶　小川勇二郎　衣笠善博　郡寄隆次　小玉喜三郎　小西　勇　酒井豊三郎　佐藤　武　白石　正一　鈴木博之　鈴木盛久　田崎和江　田宮良一　野口寧世　堀田信子　堀　信行　宮内　彰　吉田鎮男　渡邉一徳
３．広報部会：広報委員会（坂口・松田）
４．学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）
⑴ 国際交流委員会（ウォリス）
2024年のIGC開催国に韓国（大韓地質学会）が立候補するので，サポートレターを日本地質学会が準備する．井龍会長とウォリス理事が担当する．

2016年４月23日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

2015年度
第11回執行理事会議事録

期　日：2016年４月23日（土）14:30～12:00
場　所：産総研　会議室（本館６階）＊標本館にご参集ください．
出席者：井龍会長　渡部副会長　齋藤常務理事　坂口　杉田　中澤　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：山本副会長　ウォリス　海野　緒方　竹内　平田　廣木　星　保柳　松田　山路
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者６名，委任状11名，合計17名の出席．
＊前回の議事録が承認された．

Ⅰ　審議事項
１．県の石の発表準備進捗状況と今後
集まった資料を精査し，名称と産地の修正および不足分の収集を進める．25日（月）に収集催促を行う．文科省記者会に会見を申し込み，リリースの手順を決める．そのうえて各支部での個別リリースの手順と解禁時間のアナウンスを準備する．
２．熊本地震への対応
・連合大会における熊本地震の緊急セッション（地震学会）と共催する．
・災害調査委員会として情報収集に努める．
・現地入りしている会員に学会調査団としての名義使用を打診する．
・関係機関によるサポート情報や調査情報をHPに掲載する．
３．2016年度第１回理事会審議事項について
・会長＝代表理事，副会長の選出
・執行理事の選出（部会長の選出）
・理事会議長・副議長の選出
・業務委員会の確認
・各賞選考委員会委員の選出
業務委員会および各賞選考委員は前もって人選プランを準備しておき，議論の充実に努める．
４．その他

Ⅱ　報告事項
１．全体的報告
１）今回の熊本地震に関し，熊本県の会員（会員数41名）のうちメールアドレス登録者33人にメールで安否確認を出した．９名の方から，無事であるとの返事が届いた．西日本支部仲谷支部長からも連絡があり，支部としても対応しているとのことであった．
なお，これらの地域が激甚災害に指定された場合には，会費の免除も検討する必要がある．関係機関によるサポート情報を収集して掲載する．
２）2016年度の地質情報展等に対する科研費は90万円に交付内定．
２．運営財政部会：総務委員会（緒方）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１）大阪市立自然史博物館より，第47回特別展「氷河時代―化石でたどる日本の気候変動」（７/16-10/16）後援名義使用申請を承諾した．
２）日本科学技術振興財団より「青少年のための科学の祭典2016」（６/11-2017/１/28，全国76会場）の後援依頼を承諾
また，青少年のための科学の祭典2015の事業報告があった．
３）地球化学会第63回年会の共催依頼（９/14-16，大阪市大）を承諾
４）北海道博物館第２回特別展「ジオパークへ行こう！恐竜，アンモナイト，火山，地球の不思議を探す旅」（７/９-９/25）後援依頼を承諾
５）愛媛大学ミュージアム・理学部主催企画展示「愛媛県の石―岩石・鉱物・化石」（５/10-９/19）後援申請　県の石展示が行われる．公開日に注意してもらう．
６）住友財団より，2016年度研究助成公募（基礎科学研究助成，環境研究助成，助成期間2016/11-2017/10）があり（６/16〆切），News誌，geo-flash，HPに掲載
７）原子力学会より，３/16開催の「原子力総合シンポジウム」の終了お礼
８）資源素材学会より会長交代挨拶，新会長岡田昌徳氏（JX金属（株））
９）ダイヤコンサルタント役員交代挨拶，新社長野口泰彦氏
10）千葉大学環境リモートセンシング研究センター長の交代，新センター長安岡善文氏
11）石灰石鉱業協会より会長交代挨拶，新会長竹内　章氏
＜会員＞
１）今月の入会者（５名）
正〔院割〕会員（５名）：村岡やよい，志村侑亮，大信田彦磨，姚　奇峰，坂田凌輔
２）今月の退会者（正会員　８名）
武藤　智，曹　鉉子，遠西昭寿，殿上義久，新井達之，古谷祥悟，向山悠樹，藤井雄大
３）今月の逝去者（２名）
名誉会員（１名）倉林三郎（2015/12/３）
正会員（１名）　西川　功（２/29）
３．広報部会：広報委員会（坂口・松田）
・一家に１枚ポスター企画募集に対し対応する．締め切り５/18
・地惑連合のフェローに会員から選ばれた方がたをHPにリストアップする．
４．編集出版部会（山路・海野・保柳）
⑶ 企画出版委員会（保柳）
・共立出版とのあいだでフィールドジオロジーの電子出版の契約を４/19付で交わした．
・“海洋底の地質”については，理事会で意見要望のあった点について安間氏並びに出版社との間でこれまでの経緯等を確認し，これまでの経年を考慮して編集作業をすすめるよう注意を促した．そのほか編集に関する著者らとの個々の事柄については，双方で解決すべきこととした．
５．社会貢献部会（平田・杉田・廣木）
・地質の日行事「街中ジオ散歩―国会議事堂の石を見に行こう」５月14日
応募総数　90名（午前49名，午後41名）であった．４/18に抽選を行い，午前25名，午後26名の当選者を決めた．当日の参加者は午前25名，午後25名であった．
・地質調査研修：秋季研修は11月14日（月）～11月18日（金）実施を予定．

以上
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

2015年度
第12回執行理事会議事録

期　日：2016年５月21日（土）10:00～10:45
場　所：北とぴあ　第二研修室（本館７階）
出席者：井龍会長　山本副会長　渡部副会長
　齋藤常務理事　ウォリス　緒方　竹内
　杉田　中澤　廣木　保柳　星　松田　山路
　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：海野　坂口　平田（井龍）
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14委任状３名，合計17名の出席
＊前回の議事録が承認された．

Ⅰ　審議事項

１．地質地盤情報の活用と法整備を考える会への参画について
　前身の「地質地盤情報活用推進協議会」に引き続き，参画することを承認．
２．The　Geology of Japanの非会員向け価格（連合で注文を取るため）
　会員の申込み数５/20現在：約280部
　連合大会で非会員の注文を受け付け，非会員価格は国内送料込み8000円．予約は現金引換え．
３．熊本地震の被災会員への対応の確認
　会費は，今年か来年のどちらか１年について，会員からの申請があれば免除する．
　年会参加費についても会員から申請があれば免除を認める．年会会場において，会員から広く寄付を募る．
４．総会への対応
　総会議事進行を確認した．
５．Gender Equality　Workshop at Goldschmidt（主催：Claudia Alves de Jesus Rydin, European Research Council（ERC）・堀　利栄（日本地質学会）・Daniel Coley（Lund Univ.）への後援依頼および会場費の補助（３万円程度）について男女共同参画委員会（堀委員長）の要請があった．
　これについては会場費の補助とともに後援を承認した．
６．その他

Ⅱ　報告事項

＜全体的報告＞
１）一家に１枚のポスターについて
　今年度は間に合わず，応募しなかった．
２）資源エネ庁から地層処分説明会の意見等に対する回答が出た．当日の出席者にPDFを送付するとともに資源エネ庁のHPにリンクを張った．
１．運営財政部会：総務委員会（緒方）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
１）群馬県立自然史博物館20周年記念企画展「超肉食恐竜T.rex」後援依頼を承認した．
２）三浦半島活断層調査会：城ケ島観察会（５/22）（後援）の実施報告
３）ジオ神奈川（蟹江代表）より観察会「城ケ島の関東大震災」（後援）の実施報告
４）第４回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム（2015/９/15-20）の実施報告，約20カ国から618名の参加を得た．
５）台湾地質学会訪問について
　台湾地球科学総合学術検討会Taiwan Geoscience Assembly（TGA）（１/３年に開催，５/16-20）でのJoint Symposium of Taiwan and Japan Geological Societies（５/17か18）に，井龍会長，保柳理事，ウォリス理事の３名が招待参加した．
　来年の愛媛大会で国際シンポを開催する（活断層関係，地熱関係が候補）ことなどが話し合われた．今年の東京桜上水大会への招待状を送付することとした．

以上

2016年６月11日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）井龍康文
署名人　執行理事　斎藤　眞

2016年度
第１回執行理事会議事録

期　日：2016年６月11日（土）13:00～18:15
場　所：地質学会事務局
出席者：渡部会長　山本副会長　松田副会長
　齋藤常務理事　安藤　緒方　坂口　杉田
　田村　辻森　内藤　中澤　西　廣木
　（旧執行理事）ウォリス　松田達　保柳
　（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：岡田　小宮　平田（渡部）山田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状３名，合計18名の出席．
＊前回議事録の承認

Ⅰ　審議事項

１．125周年記念事業に関する件
１）記念会員証の発行
　発行自体は問題ないが，メリットや目的がはっきりしないので，問題点を再検討の上で再提案．
２）50年顕彰の改定の検討開始
　50年会員顕彰の前倒しは提案内容が現実的でない点があるので，却下としたが，別途永年会員となれるような方法があれば再検討のうえ再提案する．
３）25年（または30年）永年会員顕彰の検討開始
　検討を始めることは了承されたが，顕彰の内容は再検討する．
２．日本学術会議の若手科学者ネットワークへの若手代表者の参加登録について
　辻森理事を参加登録する．
３．「県の石」関係：審議および報告
１）News誌への掲載について：News誌６月号に予定．オールカラーで掲載した場合，ページ数および印刷費が通常号の約２倍程度．
　プレスリリースした内容を，そのままカラーで掲載することを承認．
２）県の石の応募採用者へのご褒美について
　当選者約173（うち１件137，２件29，３件７）
　地質学会のクリアファイル・ニュース誌別刷り等を粗品として送付．とくに３件とも採用当選者には学会フィールドノートを進呈．
３）報告：県の石（徳島県）についてのご意見（石田啓祐会員より）
　斎藤常務理事より選定の経緯等に関して説明をしつつ，返答することとした．
４）今後の対応について
　各県での採用を働きかけるため，学会より知事部局に案内文書送付．
　広報用のポスターや標本セットなどについて作成作業を進める．
４．業務委員会等について：下記の委員会について，委員長等の体制をあらためる．委員の選出については理事会の承認が必要であり，９月の理事会までの取り扱いは向山議長，佐々木副議長と相談する．
　地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長，岩森・大藤副編集長，その他委員）
　法務委員会（山路委員長　委員：伊藤谷，斎藤真，沢口，杉田）
　地質災害委員会（松田達理事を加え，委員長としたい）
５．新旧引継ぎ，その他
広報部会
　広報全体：坂口
　ニュース誌：小宮（企画出版兼任）
　防災ポータル：松田達生
　WEB：内藤
学術研究部会
　国際交流：井龍，（前担当ウォリス氏も協力）
　行事委員会：岡田
　専門部会連絡会議：山田
　地層標準：辻森
　地層名データベース：中澤
編集出版部会
　地質学雑誌：中澤
　Island Arc：田村
　企画出版委員会：リーフレット以外の出版物　小宮（広報兼任），保柳
　リーフレット企画出版：高清水委員長，大木淳一，伊藤　孝
社会貢献部会：平田，杉田，廣木
　教員免許講習の学会としての参画（講師引き受け）
　教科書・入試関連：廣木，星
　「県の石」支援委員会：辻森
６．熊本地震災害への学会声明（案）について
　字句修正の上Websiteおよびニュース誌掲

載を承認

Ⅱ　報告事項

1．全体的報告

(1) 防災学術連携体総会報告（斎藤）

1）第1回防災推進国民大会への対応：沢口理事が担当者として，プログラム編成までを対応．

①8/27（土）10:00～13:00　日本地質学会講演会「都市の地下を知って安全な社会を！（仮題）」東大理学部

②8/28（日）10:00～16:30 ワークショップ1「火山災害にどう備えるか」，2「首都直下地震にどう備えるか」（東大山上会館）について，火山地質関連の講師の要請があり，これについては火山部会の及川部会長に対応を一任した．

2）日本学術会議・防災学術連携体合同講演会「熊本地震・3ヶ月報告会」（7/16 9：30～17：45，日本学術会議）

地質学会からは，大橋聖和会員（山口大）・向吉秀樹会員（島根大）が報告する．

(2) 西日本支部「第2回西日本地質研修会」（6/1-2，山口大学地球圏システム科学科との共催）の実施報告があり，講習会41名，巡検21名の参加者があった．収支は17万余円の黒字となり，余剰金は一旦学会に入金したうえで，共催の山口大学へは折半して奨学寄付金とする．

(3) GSLよりThe Geology of Japanの入金が確認されたので，週明けに発送の準備をするとの連絡があった．なお，GSLから，現時点での販売部数は，Hardback：31部，Softback：143. そのほか北米に向け200部，IGC，PETEX，AGUなどでも販売予定とのことが報告されている．

2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

・神奈川県立生命の星地球博物館特別展「Minerals in the Earth－大地からの贈り物－」（7/16-11/6）の後援依頼を承諾

・藤原ナチュラルヒストリー振興財団より，「神戸シンポジウム―ナチュラルヒストリーこれまでの貢献と今後への期待」（兵庫県けんみんホール，10/22）の後援依頼を承諾

・（株）リバネス“サイエンスキャッスル実行委員会”より「サイエンスキャッスル2016」（さまざまな分野を研究する中・高生の発表・ディスカッションしあう学会）の後援・協力依頼を承認：12/11-12/24の間4ブロックでの開催，後援承諾．

・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「ジオパークの石ころ」（7/13-8/27）の後援依頼を承諾

・尾瀬保護財団「第20回尾瀬賞の募集」案内（募集期間4/1-8/31）→News誌，HP，geo-flashに掲載．第19回の受賞者表彰式は6/9（都道府県会館，千代田区）において開催．

・文部科学大臣表彰科学技術賞，若手科学者賞推薦依頼:特に女性，海外を拠点に研究活動を行っているもの（締め切7/27，学会締め切7/15）詳細は文科のHP参照．→News誌，HP，geo-flashに掲載

・テクノオーシャンネットワーク「2016年海のフロンティアを拓く岡村健二賞」募集案内

海洋開発に関しての機器開発，深海技術の開発，研究，過去2年間に発表された論文，論文発表時35歳以下のものが対象．→News誌，HP，geo-flashに掲載

・女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」の募集，50歳未満，自然科学分野の女性研究者（〆切11/30）→HP，geo-flash，News誌に掲載

・東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の公募（10/7〆切，学会〆切8/30）→HP，geo-flash，News誌に掲載

・北海道博物館第2回特別展「ジオパークへ行こう」（後援，7/9-9/25）の開会式（7/8）に，北海道支部長竹下理事が出席することとなった．

・高校生技術チャレンジJSEC2015の実施報告：国内ファイナリスト8件を国際大会に派遣

国際大会の結果：グランドアワード1等1件，2等2件，インテル財団文化・科学中国訪問賞1件

・千葉県の職員採用公募：地質職1名（環境保全に関する企画，立案，試験研究等）35歳以下，期間6/3-23→HP，geo-flashに掲載

・日本歴史学協会は，歴史資料の保存救済を訴える熊本地震に対する緊急声明（5/20）を出した．

・日本水環境学会より第19回シンポジウム（9/14，秋田県立大学）開催の案内→HP，geo-flash，News誌に掲載

＜会員＞

1．今月の入会者（30名）

正会員〔15名〕：義山弘男，竹内慎一郎，中村英樹，五十公野裕也，小尾　亮，江森良太郎，清水　徹，広井良美，津野洋美，船井孝誠，伊藤崇則，西山直毅，佐久間　博，大関　萌，尾張聡子

正（院割）会員〔14名〕：牧野帆乃香，岡澤　誠，村宮悠介，水戸創也，山根百花，前浜悠太，児玉省吾，井村　匠，シバジ　サハ，井口勝洋，田原幸太，渡辺賢人，手塚直希，伊藤祐輝

正（学部割）会員〔1名〕：伊東慶祐

2．今月の退会者（6名）

加藤夢絵，天野早織，藤井　悟，大矢和孝，岡部　来，佐伯綾香

3．今月の逝去者（1名）

上砂正一（2016年6月7日，逝去）

4．2016年5月末日会員数

賛助：27，名誉：57，正会員：3618（正会員：3509，正（院割）会員：103，正（学部割）会員：6）合計3702（昨年比－48）

＜会計＞

・熊本地震被災会員からの会費の免除申請は，現時点での申請者2名

・The Geology of Japanの予約部数360部に対し，前金（1,578,389円）を支払った．

会員価格：7,000（非会員8,000）円→6,500（非会員8,000）円前後（入荷後に確定）

・9月の年会に，招待・訪問の国際交流関係（昼食会，都内観光等）の費用について確認検討

大会費用から難しい場合は，引当金から充当

3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）

・ジオルジュ次号の特集　監修の件　企画書提出後に決定　　監修：会長担当

4．学術研究部会（岡田・山田）

(1) 行事委員会（岡田）

・前・現行事委員長とのあいだで，すでに引き継ぎ書類交換済み

(2) 国際交流委員会（井龍）

・9月の年会に，大韓地質学会の代表の招待，台湾地質学会一行の訪問などが予定されている．

(3) JIS，標準担当（中澤，辻森：学術研究部会兼務）

(4) 地層名データベース（中澤：学術研究部会兼務）

・地層名データベース用カテゴリは用意済み.学会としての取り組みを対外的に発信する．

5．編集出版部会（中澤・田村・小宮）

(1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長）

1）編集状況報告（6月8日現在）．

2016年投稿論文　総数43編［総説1（和文），論説19（和文19），報告4（和文3，英文1），講座5（和文5），ノート2（和文），口絵1（和文1），巡検案内書11］（昨年比＋10）

査読中：43　受理済み：10（うち，案内書1）

・編集委員会新体制発足：（委員長）山路敦（副委員長）岩森　光・大藤　茂で5/21より暫定的に運用を開始した．その他，編集委員会メンバーについては別途資料参照．新体制については，9月理事会にて正式に承認をうける．

・案内書，125周年特集号掲載のために，通常原稿の冊子掲載が遅くなる事が予想される．その際の著者サービスとして，受理後すみやかに事務局より原稿doi番号を著者に通知することとした．

・125周年特集号投稿の仕方について，通常投稿と区別できるように詳細を案内する．

・122巻6月号：論説1，報告3，講座1（計約55ページ，校正中）

・122巻7，8号は学術大会巡検案内書を

掲載予定.
・昨年申し込みのあった特集号「水蒸気噴火研究の展開」(世話人：長谷川健ほか)の投稿が開始された（3/9編投稿）
(2) アイランドアーク編集委員会（田村）
1）編集状況
Vol.25 Issue 3（2016年5月）：特集号「Understaing of the largest oceanic core complex on the Earth, Godzilla Megamullion（世話人：道林ほか)」3編＋一般原稿1編＋2016 award．計60ページ（5/31発行済み）
Vol.25 Issue 4（2016年7月）：一般原稿4編．50ページを予定（校正中）
2）オンライン投稿の状況
過去半年（2016.1.1～2016.5.31）の投稿数35件．うち新規投稿33件.
3）その他
・5/22例年同様，連合大会にて編集委員会を開催．おもにVol 25からの変更点（隔月化など）などが説明された．また2015年IF（まもなく発表予定）は，1.379の予想（ワイリー試算：かなり上昇！）.
・2016年の最多ダウンロード賞が下記の通り決定した.
Yui Kouketsu et al, 2014, A new approach to develop the Raman carbonaceous material geothermometer for low-grade metamorphism using peak width. Island Arc, 23, Issue 1, 33-50
・Issue 4（7月）から誌面レイアウトの変更を予定していたが，作業が遅れており，2016年秋以降になる見込み（Issue 5，6以降）
・地球惑星科学連合大会のサイエンスカフェでWileyの論文投稿・書き方ワークショップ.武藤鉄司氏が講師
・Goldschmidt Elsevier &Wiley 共同ワークショップでIsland Arcの紹介予定（田村）
・Island Arc投稿規程の変更について
(3) 企画出版委員会（小宮：編集出版部会兼務）
6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）
・街中ジオ散歩（5/14）実施報告：参加者50名，収支プラス47,000円強，共催の応用地質学会と折半.
・来年の街中ジオ散歩の企画の検討を開始.
・平成28年度秋季地質調査研修(講師：徳橋)の実施条件に関する打ち合わせを6/9に実施.来年度以降の実施については，規約（講師依頼等）を改正して対応する予定.
7．ジオパーク支援委員会（平田）
・地震火山サマースクール運営委員会の地質学会からの委員は柴田伊廣会員（文化庁）とした.
・第17回地震火山サマースクールは，南紀熊野ジオパークを中心に，8/20-21に実施することとなった．6/1-7/15募集期間とする．→News誌，geo-flashに掲載
8．地学オリンピック支援委員会（平田）
9．地質災害委員会（斎藤）
・松田達生理事(防災広報アウトリーチ特任)を次の理事会で承認を受けて斎藤委員長の後任とする.
10. 地質技術者教育委員会（山本）
・5/25 JABEE総会に山本が出席：理学系は新規申請なし．継続申請が減少傾向.
JABEE有資格者の大学卒業生の増加に伴い，技術士資格取得の低年齢化傾向
11. 125周年記念事業実行委員会（渡部）
・記念事業に関し，佐々木理事,緒方理事の担当部分について，6/2に検討し，今執行理事会で検討審議の必要なことについて緒方理事より提案した.
・次回の125周年記念事業実行委員会は6/28に開催予定.
12. 県の石（出版）プロジェクトチーム（辻森）
・来月打ち合わせ予定（7/13につくばの科博で）
13. 地質学雑誌のあり方タスクフォース（斉藤）
・第1回会合 5/22 斉藤，山路，大藤，小宮，中澤 欠席 藤野（欠）
担当追加：運営財政部会より，西，緒方の両理事を加えることとした
各種問題点について指摘しあった.

以上

2016年7月30日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会 長（代表理事）渡部芳夫
署名人 執行理事 斎藤 眞

2016年度
第2回執行理事会議事録

期 日：2016年7月30日（土）13:00～19:00
場 所：地質学会事務局
出席者：渡部会長 山本副会長 松田副会長（4時退席） 齋藤常務理事 安藤（3時出席） 緒方 岡田（3時退席） 杉田 田村 辻森 内藤 中澤 西（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：小宮 坂口 平田 廣木 山田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者13名，委任状5名，合計18名の出席.
＊前回議事録を承認.

Ⅰ 審議事項

1．産総研地質調査総合センターよりの提案(斎藤)
「地方におけるCPD単位認定講演会等への講師派遣に関するご提案」があった．応用地質学会等にも提案中．行事の主体は学協会，産総研は共催という形で講師の派遣支援等を行う.
主催：学協会（参加者の募集，会場の手配，GSJへの共催依頼手続）
共催：産総研（講演可能リストの提案，講師の派遣（旅費のみ，謝金不要），会場の提供）
2．学会賞及び小澤/柵山賞受賞者へのレビュー論文の執筆依頼について（中澤）
受賞者による総説執筆を復活させ，来年度からのルール化を目指す.
3．創立125周年に向けての学会（長）コミュニケについて（渡部）
本件について説明があり，提出された資料の説明と125周年の会長名による宣言文（案）の内容に関して議論がなされた.
4．9月理事会の審議事項
125周年記念事業リストとスケジュールの確認
謝金に関する細則の検討（運営規則の変更）
各種委員会委員の変更及び既存委員会の現状把握と整理
5．その他
1）ORCIDについて，学会としてメンバー登録するための情報を調べることにした.
2）前年度の理事会で審議の結果，執行理事会での再検討となった各賞選考規則の改正（特に，小藤文次郎賞と研究奨励賞について）について検討した結果，改正は行わないことにした.

Ⅱ 報告事項

1．全体的報告
1）「県の石」についての広報・周知のお願いを，8月1日に山口県知事に会長が直に手わたすこととなった.
2）国際地学オリンピック（8/21-27）開催への出席については，松田副会長が開会式にのみ出席することとなった.
・開会式8/21（日）10:00～11:00
・表彰式8/27（土）9:30～11:00
＊会場はいずれも三重大学三翠ホール
3）第1回防災推進国民大会（8/27-28，東大小柴ホール））への参加：講演会の実施 8/27 10:00～12:30 「都市の地下を知って安全な社会を」栗本氏ほか5講演
4）全地連発行「地質と調査」編集委員会より小特集「人材育成」についての記事の執筆依頼があった．検討の結果，坂口理事が寄稿することとなった.
5）フィールドマスター認定の概要について（山本）
現状報告があり，方針と具体案について意見を収集した．本件については今後さらに検討を進める.

2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1．沖縄協会より「第38回沖縄研究奨励賞」の公募（7/15-9/30，学会〆切9/15）→HP，geo-flash，News掲載
2．朝日新聞文化財団より朝日賞の推薦依頼

（〆切８/25，学会〆切８/10）→HP，geo-flash，News誌に掲載
３．日本科学協会より平成29年度笹川研究助成の募集（学術研究10/１-14，実践研究11/１-15）→HP，geo-flash，News誌に掲載
４．東京大学海洋研究所より，学術研究船「白鳳丸」の平成29年度実施の研究航海に参加して実施する小規模研究募集（期限９/９），および，東北海洋生態系調査研究船新青丸共同利用の公募（期限９/９）→HP，geo-flashに掲載
５．蒲郡市生命の海科学館より，当学会の第7回惑星地球フォトコンテストの展示会開催につき，共催依頼を承諾した．
６．第17回子供のためのジオカーニバル企画委員会より（代表者　廣木義久，11/５-６，大阪市）の後援名義使用依頼を承諾した．
＜その他＞
１．原子力構造工学推進連絡会（IASMiRT）（代表高田毅士：東大）の設立（2016/06）通知→理事会メールに回覧．SMiRT24（原子力構造工学国際会議，2017/08，釜山）の案内あり．
２．学協会役員変更の挨拶：土木学会（新会長田代民治氏ほか），地盤工学会（会長村上章氏ほか）
３．会社役員変更の挨拶：賛助会員石油資源開発（株）（会長渡辺修氏，社長岡田秀一氏ほか），公財）深田地質研究所（理事長松岡俊文氏），社）学術著作権協会（代表理事野間豊氏）
＜会員＞
１．今月の入会者（69名）＊氏名別紙回覧
正会員〔14名〕：
正（院割）会員〔49名〕：
正（学部割）会員〔７名〕：
２．今月の退会者（５名）
石川真帆，田中秀輝，村岡　諭，饗場清文，箕輪賢二
３．今月の逝去者（１名）
鈴木一久（７/13）
４．2016年６月末日会員数
賛助：27，名誉：57，正会員：3638（正会員：3516，院割会員：115，学部割会員：７）合計 3722（昨年比 －48）
＜会計＞
・９月の年会に，招待・訪問の国際交流関係者の懇親会への招待及び都内観光等の費用について経費の負担を検討し，概要を確認し国際交流費として負担することとした．
・熊本地震の調査等に関する費用負担：大橋会員，向吉会員等については，地質災害委員会（斎藤常務）より，本人に確認することとした．
・The Geology of Japanの入荷は８/10の予定，注文者に代金の送金を依頼した．会員向け価格は送料込みで6,500円とした．別途学会の事務所までの搬入と木枠の開梱費用として運送業者に8,640円を支払った．
・予算計画に基づき，地学オリンピック日本委員会への今年度の協賛（６口30万円）を承諾した．
・西日本支部のCPD行事の収支のプラス分について，共催の山口大学へは半額を学会からの奨学寄付金（88,000円）とした．
３．広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）
・昨年同様，日本印刷（株）のギャラリーにおいて，８/２-12までフォトコンの展示会を開催してくれることとなった．県の石についても大パネルを作成して展示の予定．
この後例年通り，地質情報展，蒲郡市生命の海科学館で順次展示される．
４．学術研究部会（岡田・山田）
(1) 行事委員会（岡田）
・東京桜上水大会準備状況
発表申込件数582件：口頭339件，ポスター243件（ポスター賞エントリー116件）
巡検申込み状況：現状で定員に達したコースは１つのみ．〆切が近いが参加を呼びかける．
ハイライト発表をどう定義するかの議論があった．
(2) 国際交流委員会（井龍）
・井龍担当理事より，下記の方々の10日の懇親会への招待及び11日予定のプチ東京ツアーの経費負担要請があり，承認された．
・国際賞受賞者招待（往復航空運賃およびホテル３泊　負担）
Prof. Roberto Compagnoni氏
・招待者（ホテルのみ負担）
大韓地質学会：会長Prof. Min Huh氏　９/10-11（１泊），Prof. Yul Roh氏　９/10-12（２泊）
・国際シンポジウム関係
韓国：Don Sunwoo氏　９/９-13　夫人同伴（４泊）
台湾：Hsu Shukun氏　９/11-13（２泊）
(3) JIS，標準担当（中澤）
現在，地質学雑誌掲載分の地層名についての収集作業が進められている．
５．編集出版部会（中澤・田村・小宮）
(1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員長）
１）編集状況報告（６月８日現在）．
2016年投稿論文　総数56編［総説３（和文３），論説29（和文29），報告４（和文３，英文１），講座５（和文５），ノート３（和文１，英文１），口絵１（和文１），巡検案内書11］
査読中：37　受理済み：12
・122巻７月号：巡検案内書５編（計82ページ，印刷中，８/２発送予定）
・122巻８月号：巡検案内書５編（計約90ページ，入稿準備中）
・巡検案内書について，全11コース中10コース受理（７，８月号に掲載）．残りの１編については査読中．
２）トムソン社から雑誌のデータベース収録に関する要望があった．
(2) アイランドアーク編集委員会（田村）
１）編集状況
Vol. 25 Issue 4（2016年７月）：一般原稿４編（うち口絵１）．50ページ（７/７発行済み）
Vol. 25 Issue 5（2016年９月）：特集号：Geological records of storms, tsunamis and other extreme events（世話人：藤野滋弘）６編（うち２編Early View公開済み）
２）オンライン投稿の状況
過去半年（2016.２.１～2016.７.29）の投稿数46件．うち新規投稿41件．
投稿中特集号の状況（３編）
・Land-Ocean Linkages and Biotic Evolution during the Cretaceous: Contribution from Asia and Western Pacific（IGCP特集号，世話人：安藤寿男ほか）26編投稿（受理２編）
・Orogenic processes in island arcs: subduction, accretion, collision and recycling（山本特集，世話人：山本啓司）16編で構成予定．投稿済み１編．６月末締切り予定であったが，投稿が遅れている．世話人督促中（７/５現在）
・Recent progress in study on calcareous algae and algal sediment（仮）
（世話人：井龍康文）構成予定10編すべて投稿済み．査読中．
３）その他
・2015年IF発表（2016.６.15）：1.397
・誌面レイアウトの変更については，作業がおくれていたが，Vol. 25，Issue 6（2016．11月号）より新誌面で発行予定．
(3) 企画出版委員会（小宮）
６．社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）
・「月刊石材」発行元の石文社より，先般実施された国会議事堂の石見学会の案内者に対し，石の魅力についての取材の申し込みがあり，取材を受けることで幹事の細矢氏が調整中．
・秋の地質調査研修の実施にあたり，産総研に対し７/26付けで共催の申請をおこなった．
７．ジオパーク支援委員会（平田）
８．地学オリンピック支援委員会（平田）
１）日本地学オリンピック委員会より，来年度の地学オリンピック出題委員推薦の依頼があり，地質学会から会員一名を推薦した．
２）平成28年度活動支援協賛の依頼を受け，例年どおり協賛を承諾した．
３）国際地学オリンピック三重大会の準備状況について
① 参加チーム：27チーム（過去最高，これまでの最高は第５回イタリア大会の26）
オーストラリア，オーストリア，バングラデシュ，ブラジル，カンボジア，台湾，チェコ，フランス，ドイツ，インド，インドネシア，イタリア，日本，カザフスタン，韓国マラウイ，ノルウェー，中国，ポルトガル，ルーマニ

ア，ロシア，スペイン，スリランカ，タイ，トルクメニスタン，ウクライナ，アメリカ，（オブザーバー：アルゼンチン）

② 参加選手：102名（1チームあたり4名が原則．ただし，それ以下でも可）
ゲスト生徒：10名（参加選手と同じくすべての活動には参加可能．ただし，メダル授与の対象外）

③ 一般公開（見学可能）の日程
8月21日　10:00～11:00　開会式（三重大学三翠ホール）
8月26日　13:30～16:30　国際協力野外調査（通称，ITFI）発表会
8月27日　09:30～11:00　閉会

9．地質災害委員会　（斎藤）
・委員長の交代（松田達生理事）ならびに委員の継続交代については調査中．

10．地質技術者教育委員会（山本）

11．125周年記念事業実行委員会（緒方，渡部）
・会員証カードの検討状況報告
　9月の理事会で審議する．カードはプラスチックカード［掲載情報は名前＋会員番号］で，2017年発行．2018年に会員に配付を目指す．
・125周年記念ロゴの募集は締め切られ，17点の応募があった．現在会員のWeb投票中（8/22まで）．8月末から9月初旬に選考委員会（7名）において，入賞ロゴ（最優秀1，優秀2）を決定し，11月初旬までにリメイクし完成予定．

12．県の石支援委員会（辻森）
・県の石の広報と周知について，山口県知事にお願いをすることとなり，8/1会長が県庁に赴き知事に直接依頼状を手渡すこととなった．また，鳥取県にも同様に働きかける予定．
・県の石出版について，7/13つくばの科博にて第1回の打ち合わせをおこなった．

以上

2016年9月9日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）渡部芳夫
署名人　執行理事　斎藤　眞

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合	本店 支店 出張所			1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
166	30	1　　0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード 00000	

―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

82円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内
一般社団法人日本地質学会

御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

Coming Soon!!
最新号（2016後期号）まもなく発行

申込・問い合わせ：一般社団法人 日本地質学会
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

Stallard Scientific Editing

your trusted partner in English-language excellence

science • technology • medicine • engineering • arts　　research papers • theses • books • abstracts

スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください．
貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します．

Dr.アーロン・スタラードの略歴：

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得．
- 2000ー2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在．
- 2002ー2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員．
- 国際誌10編の原著論文．
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績．

スタラード・サイエンティフィック英文校正について．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのネルソンから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました．

スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい．

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4ー6日（休日を除く）；エクスプレスサービス1ー2日（休日を除く）．
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者．
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100％御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい．
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております．
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます．

www.stallardediting.com

Stallard Scientific Editing, 56 Brougham St, Nelson 7010, New Zealand

Tel: +64 3 5489108　　Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 5489106　　Email: aaron@stallardediting.com